

(様式第 10)

獨医大病庶庶発第 6 2 号
平成 2 8 年 1 0 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 獨協学園
理事長 寺野 彰 (印)

獨協医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 2 7 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 3 4 0 - 0 0 4 2 埼玉県草加市学園町 1 番 1 号
氏 名	学校法人 獨協学園

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

獨協医科大学病院

3 所在の場所

〒 3 2 1 - 0 2 9 3 栃木県下都賀郡壬生町北小林 8 8 0 電話(0 2 8 2) 8 6 - 1 1 1 1
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	○有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 心臓・血管内科 2 消化器内科 3 血液・腫瘍内科 4 循環器・腎臓内科 5 神経内科 6 内分泌代謝内科 7 呼吸器・アレルギー科 8 リウマチ科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	○有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1心臓・血管外科 2形成外科・美容外科 3小児外科 4呼吸器外科 5乳腺外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○1精神科 ○2小児科 ○3整形外科 ○4脳神経外科 ○5皮膚科 ○6泌尿器科 ○7産婦人科 8産科 9婦人科 ○10眼科 11耳鼻咽喉科 ○12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ○15麻酔科 ○16救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ ○無
歯科と組み合わせた診療科名 1歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1頭頸部・耳鼻咽喉科 2リハビリテーション科 3病理診断科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
42床	0床	0床	0床	1,125床	1,167床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	563人	5.4人	568.4人	看 護 補 助 者	90人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	19人	0人	19人	理 学 療 法 士	18人	臨床検査技師	94人
薬 剤 師	77人	0人	77人	作 業 療 法 士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	7人	そ の 他	0人
助 産 師	44人	1.2人	45.2人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	976人	64.2人	1,040.2人	臨 床 工 学 士	20人	医療社会事業従事者	13人
准 看 護 師	2人	2.6人	4.6人	栄 養 士	10人	その他の技術員	5人
歯 科 衛 生 士	5人	0.8人	5.8人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	244人
管 理 栄 養 士	24人	0人	24人	診療放射線技師	66人	そ の 他 の 職 員	83人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	24人	眼 科 専 門 医	12人
外 科 専 門 医	42人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	9人
精 神 科 専 門 医	6人	放 射 線 科 専 門 医	12人
小 児 科 専 門 医	13人	脳 神 経 外 科 専 門 医	12人
皮 膚 科 専 門 医	7人	整 形 外 科 専 門 医	14人
泌 尿 器 科 専 門 医	10人	麻 酔 科 専 門 医	31人
産 婦 人 科 専 門 医	13人	救 急 科 専 門 医	9人
		合 計	214人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (平石 秀幸) 任命年月日 平成26年4月1日

「副院長兼医療安全管理部副部長」 (平成20年2月1日～平成26年3月31日)
--

9 前年度

の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	1,053.6人	14.2人	1,067.8人
1日当たり平均外来患者数	2,031.0人	98.6人	2,129.6人
1日当たり平均調剤数	3,967.2剤		
必要医師数	234人		
必要歯科医師数	7人		
必要薬剤師数	50人		
必要(准)看護師数	606人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備		概 要	
集中治療室	200m ²	鉄筋 コンクリート	病床数	10床	心電計	○有・無
			人工呼吸装置	○有・無	心細動除去装置	○有・無
			その他の救急蘇生装置	○有・無	ペースメーカー	○有・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	376m ²		病床数	27床
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品 情報管理室	[専用室の場合]	床積	54m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	615m ²		(主な設備) 全自動生化学分析装置JCA-BM6070 " JCA-BM9130			
細菌検査室	41.63m ²		(主な設備) 全自動細菌検査分析装置マイクロスキャンシステムMT-6500			
病理検査室	266m ²		(主な設備) 自動免疫染色装置、感染防止機能付クリオスタット 顕微鏡写真撮影装置、密閉式自動固定包埋装置 自動染色装置			
病理解剖室	80m ²		(主な設備) 感染防止対策用解剖台、医用写真撮影装置 高圧蒸気滅菌器、自動ホルマリン作成装置			
研 究 室	21,154m ²		(主な設備) マルチモードプレートリーダー、4D MV-Assessmentシステム 次世代シーケンサーIon Protonシステム			
講 義 室	288m ²		室数	1室	収容定員	238人
図 書 室	5,894m ²		室数	1室	蔵書数	250,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	70.8%	逆紹介率	50.4%
算出根拠	A：紹介患者の数	21,257人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	18,237人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	4,343人	
	D：初診の患者の数	36,165人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注) ※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況 ※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

委員名簿の公表の有無	有・○無
委員の選定理由の公表の有無	有・○無
公表の方法	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
神経変性疾患の遺伝子診断	3
EBウイルス感染症迅速診断(リアルタイムPCR法)	15
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	47
前眼部三次元画像解析	210

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
経カテーテル大動脈弁植込み術	30
トレミキシンを用いた吸着式血液浄化療法	4
オクトレオチド皮下注射療法	2
FOLFIRINOX療法	4

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	内視鏡的胆管結石除去術	取扱患者数	148人
当該医療技術の概要 総胆管結石症に対して結石を除去するため行う内視鏡治療			
医療技術名	肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 肝臓癌に対して超音波ガイド下に穿刺し電氣的に焼灼、壊死に至らしめる治療			
医療技術名	炎症性腸疾患に対する血球成分除去療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 活動期潰瘍性大腸炎やクローン病患者に対する顆粒球や白血球成分除去療法			
医療技術名	クローン病患者に対するダブルバルーン小腸内視鏡	取扱患者数	65人
当該医療技術の概要 ダブルバルーン小腸内視鏡を用いてクローン病の診断や狭窄部治療、治療効果判定を行う			
医療技術名	劇症肝炎に対する血液浄化療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 劇症肝炎患者に対して行う血漿交換や血液濾過透析療法			
医療技術名	重症膵炎に対する動注療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 重症急性膵炎に対する集中治療としての動脈内薬物注入療法			
医療技術名	造血管細胞移植	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 難治性造血管腫瘍に対して、造血管細胞移植を実施して治癒を目指す			
医療技術名	植え込み型補助人工心臓	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 重症心不全患者の心臓移植までのブリッジとして植え込み型補助人工心臓植え込み術を施行			
医療技術名	急性B型大動脈解離に対するステントグラフト治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 急性B型解離に対するステントグラフト治療			
医療技術名	経椎間孔到達法による硬膜外洗浄・癒着剥離術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 経椎間孔到達法による硬膜外癒着剥離術を施行困難な症例に対して、X線透視下に責任病変直下の椎間孔到達法で神経ブロック針を刺入してカテーテルを挿入する。そのカテーテルを介して硬膜外腔腹側に薬液を注入して癒着剥離を実施			
医療技術名	埋込型除細動器移植術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 自動的に致死性心室性頻拍を感知し高頻度刺激やショックパルスを発生し除細動を行う装置を体内に埋め込むもの。			

医療技術名	血管内超音波検査	取扱患者数	221人
当該医療技術の概要			
冠動脈の動脈硬化(石灰化、アテローム硬化、血栓の有無)などについて詳細な評価を行う。			
医療技術名	経皮的冠動脈血栓吸引術	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要			
冠動脈内の血栓に対して吸引カテーテル(レスキュー、スロンバスター、パークサージ)にて血栓を吸引除去するもの。			
医療技術名	血漿交換療法	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要			
劇症肝炎やギラン・バレー症候群における障害因子を除去するために体外循環を行い血漿を濾過置換する。			
医療技術名	血液吸着療法	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要			
膠原病において自己免疫性の障害因子を除去するために体外循環によるカラム吸着療法を行う。その他、LDL吸着やエンドトキシン吸着などがある。			
医療技術名	心室再同期療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
冠静脈洞および右室にペースメーカーリードを挿入し、左右心室を同時に刺激するペースメーカー装置を体内に埋め込むもの。			
医療技術名	自家蛍光及び狭帯域光による気管支鏡検査	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
自家蛍光観察及び狭帯域光観察による気管支鏡検査で、早期肺癌の発見と治療効果確認を行い、肺癌の診療の向上と気管支鏡的治療を行っている。			
医療技術名	局所麻酔下高周波ITナイフによる胸膜全層生検術	取扱患者数	38人
当該医療技術の概要			
局所麻酔下胸腔鏡下に高周波ITナイフを用いて胸膜の全層を生検し悪性中皮腫などの診断を確定する。			
医療技術名	エクリズマブによるギラン・バレー症候群に対する抗補体治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
エクリズマブによるギラン・バレー症候群に対する抗補体治療			
医療技術名	20 channel 脳電図LORETA解析による前頭葉機能障害の判定、治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
20 channel 脳電図LORETA解析による前頭葉機能障害の判定、治療			
医療技術名	食道癌に対する胸腔鏡下食道切除	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
食道癌に対して完全鏡視下に食道およびリンパ節を切除し、再建も行う。体壁破壊の軽減により、患者の術後回復の促進が期待できる。			
医療技術名	食道癌に対するDCF併用化学放射線療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
食道癌に対して非常に効果の高いDocetaxel, Cisplatin, 5-Fluorouracilの3剤併用化学療法に放射線療法を加えることにより高い奏効率と根治性の獲得が期待できる。			
医療技術名	進行胃癌に対するDCS併用化学療法	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要			
進行胃癌に対して従来はあまり行われていなかった術前化学療法をDocetaxel, Cisplatin, S-1の3剤併用で行うことにより、生存率を延長することが期待できる。			

医療技術名	進行直腸癌に対する術前化学放射線療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
本来は肛門を温存することが難しい下部直腸癌に対して術前に化学療法を行うことによって、切除率を向上させるだけでなく肛門温存率を向上させることが期待できる。			
医療技術名	光干渉断層法(OCT)を用いた冠動脈プラーク診断と冠血管形成術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要			
光干渉断層法(OCT)により冠動脈プラークの組織性状を診断し、その結果によりバルーン・ステントを選択し、冠血管形成術を行う。こうした方法により冠血管形成術の合併症を予防し、長期予後改善が期待できる。			
医療技術名	血管内視鏡を用いたステント内新生内膜の観察	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要			
血管内視鏡はステント留置後の新生内膜の性状を直視し、正確に観察することが可能であり、冠血管形成術後の予後予測に重要である。			
医療技術名	IVUSを用いた冠動脈形成術	取扱患者数	250人
当該医療技術の概要			
現在IVUSは冠動脈形成術の適応治療戦略決定、至適終了決定に必須なモダリティである。特に我々の使用するパーティクルヒストロジーIVUSは冠動脈形成術後の予後予測に有用である。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	295人
当該医療技術の概要			
難治性うつ病や治療抵抗性都合失調症に対して筋弛緩薬によって痙攣を抑制した状態でサイマトロンを用いて頭部にパルス波を入力する			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1人	56	ベーチェット病	0人
2	筋萎縮性側索硬化症	30人	57	特発性拡張型心筋症	2人
3	脊髄性筋萎縮症	0人	58	肥大型心筋症	2人
4	原発性側索硬化症	4人	59	拘束型心筋症	44人
5	進行性核上性麻痺	0人	60	再生不良性貧血	0人
6	パーキンソン病	33人	61	自己免疫性溶血性貧血	0人
7	大脳皮質基底核変性症	0人	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	66人
8	ハンチントン病	0人	63	特発性血小板減少性紫斑病	2人
9	神経有棘赤血球症	171人	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1人
10	シャルコー・マリー・トゥース病	121人	65	原発性免疫不全症候群	0人
11	重症筋無力症	3人	66	IgA腎症	0人
12	先天性筋無力症候群	0人	67	多発性嚢胞腎	6人
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	5人	68	黄色靱帯骨化症	1人
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	0人	69	後縦靱帯骨化症	7人
15	封入体筋炎	1人	70	広範脊柱管狭窄症	27人
16	クドウ・深瀬症候群	0人	71	特発性大腿骨頭壊死症	0人
17	多系統萎縮症	1人	72	下垂体性ADH分泌異常症	0人
18	脊髄小脳変性症（多系統萎縮症を除く。）	1人	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0人
19	ライソゾーム病	0人	74	下垂体性PRL分泌亢進症	2人
20	副腎白質ジストロフィー	0人	75	クッシング病	0人
21	ミトコンドリア病	0人	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0人
22	もやもや病	0人	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0人
23	プリオン病	0人	78	下垂体前葉機能低下症	5人
24	亜急性硬化性全脳炎	0人	79	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	0人
25	進行性多巣性白質脳症	0人	80	甲状腺ホルモン不応症	1人
26	HTLV-1関連脊髄症	0人	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0人
27	特発性基底核石灰化症	0人	82	先天性副腎低形成症	0人
28	全身性アミロイドーシス	0人	83	アジソン病	0人
29	ウルリッヒ病	0人	84	サルコイドーシス	23人
30	遠位型ミオパチー	0人	85	特発性間質性肺炎	0人
31	ベスレムミオパチー	0人	86	肺動脈性肺高血圧症	32人
32	自己貧食空胞性ミオパチー	0人	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0人
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0人	88	慢性血栓性肺高血圧症	3人
34	神経線維腫症	0人	89	リンパ脈管腫症	20人
35	天疱瘡	0人	90	網膜色素変性症	0人
36	表皮水疱症	0人	91	バッド・キアリ症候群	0人
37	膿疱性乾癬（汎発型）	0人	92	特発性門脈圧亢進症	24人
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0人	93	原発性胆汁性肝硬変	0人
39	中毒性表皮壊死症	10人	94	原発性硬化性胆管炎	2人
40	高安動脈炎	0人	95	自己免疫性肝炎	13人
41	巨細胞性動脈炎	0人	96	クローン病	0人
42	結節性多発動脈炎	2人	97	潰瘍性大腸炎	44人
43	顕微鏡的多発血管炎	0人	98	好酸球性消化管疾患	0人
44	多発血管炎性肉芽腫症	7人	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	14人
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	0人	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	7人
46	悪性関節リウマチ	99人	101	腸管神経節細胞減少症	8人
47	パージャヤー病	3人	102	ルピンシュタイン・ティビ症候群	0人
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0人	103	CFC症候群	9人
49	全身性エリテマトーデス	0人	104	コステロ症候群	0人
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	0人	105	チャージ症候群	2人
51	全身性強皮症	79人	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0人
52	混合性結合組織病	1人	107	全身型若年性特発性関節炎	0人
53	シェーグレン症候群	0人	108	TNF受容体関連周期性症候群	272人
54	成人スチル病	0人	109	非典型溶血性尿毒症症候群	2人
55	再発性多発軟骨炎	24人	110	ブラウ症候群	2人

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	4人	161	家族性良性慢性天疱瘡	2人
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	1人	162	類天疱瘡（後天性表皮水泡症を含む。）	118人
113	筋ジストロフィー	0人	163	特発性後天性全身性無汗症	1人
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0人	164	眼皮皮膚白皮症	0人
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0人	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0人
116	アトピー性髄膜炎	0人	166	弾性繊維性仮性黄色腫	0人
117	脊髄空洞症	0人	167	マルファン症候群	0人
118	脊髄髄膜瘤	0人	168	エーラス・ダンロス症候群	5人
119	アイザックス症候群	0人	169	メンケス病	4人
120	遺伝性ジストニア	128人	170	オクシピタル・ホーン症候群	0人
121	神経フェリチン症	1人	171	ウィルソン病	0人
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0人	172	低ホスファターゼ症	0人
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0人	173	VATER症候群	0人
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	178人	174	那須・ハコラ病	0人
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	4人	175	ウィーバー症候群	0人
126	ペリー症候群	0人	176	コフィン・ローリー症候群	0人
127	前頭側頭葉変性症	0人	177	有馬症候群	0人
128	ピッカースタッフ脳幹炎症	0人	178	モワット・ウィルソン症候群	0人
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	38人	179	ウィリアムズ症候群	0人
130	先天性無痛無汗症	0人	180	ATR-X症候群	0人
131	アレキサンダー病	0人	181	クルーゾン症候群	5人
132	先天性核上性球麻痺	49人	182	アペール症候群	0人
133	メビウス症候群	0人	183	ファイファー症候群	0人
134	中核視神経形成異常症／ドモルシア症候群	0人	184	アントレー・ビクスラー症候群	0人
135	アイカルディ症候群	0人	185	コフィン・シリス症候群	0人
136	片側巨脳症	0人	186	ロスムンド・トムソン症候群	5人
137	限局性皮質異形成	0人	187	歌舞伎症候群	67人
138	神経細胞移動異常症	0人	188	多脾症候群	2人
139	先天性大脳白質形成不全症	0人	189	無脾症候群	0人
140	ドラベ症候群	0人	190	鯉耳腎症候群	0人
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0人	191	ウェルナー症候群	0人
142	ミオクロニー欠神てんかん	0人	192	コケイン症候群	0人
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0人	193	ブラダー・ウィリ症候群	0人
144	レノックス・ガストー症候群	13人	194	ソトス症候群	7人
145	ウエスト症候群	0人	195	ヌーナン症候群	0人
146	大田原症候群	2人	196	ヤング・シンプソン症候群	43人
147	早期ミオクロニー脳症	107人	197	1p36欠失症候群	0人
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1人	198	4p欠失症候群	0人
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0人	199	5p欠失症候群	17人
150	環状20番染色体症候群	0人	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	1人
151	ラスムッセン脳症	152人	201	アンゲルマン症候群	9人
152	PCDH19関連症候群	0人	202	スミス・マガニス症候群	0人
153	難治頻回部分発作重積型急性脳症	0人	203	22p11.2欠失症候群	4人
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0人	204	エマヌエル症候群	24人
155	ランドウ・クレフナー症候群	9人	205	脆弱X症候群関連疾患	71人
156	レット症候群	0人	206	脆弱X症候群	0人
157	スタージ・ウェーバー症候群	38人	207	総動脈幹遺残症	0人
158	結節性硬化症	0人	208	修正大血管転位症	1人
159	色素性乾皮症	0人	209	完全大血管転位症	1人
160	先天性魚鱗癬	2人	210	単心室症	0人

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0人	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	1人
212	三尖弁閉鎖症	147人	260	シトステロール血症	0人
213	心室中核欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	3人	261	タンジール病	0人
214	心室中核欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0人	262	原発性高カイロミクロン血症	1人
215	ファロー四徴症	0人	263	脳髄黄色腫症	0人
216	両大血管右室起始症	0人	264	無βリポタンパク血症	0人
217	エプスタイン病	24人	265	脂肪萎縮症	0人
218	アルポート症候群	0人	266	家族性地中海熱	0人
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0人	267	高IgD症候群	0人
220	急速進行性糸球体腎炎	27人	268	中條・西村症候群	0人
221	抗糸球体基底膜腎炎	1人	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1人
222	一次性ネフローゼ症候群	22人	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0人
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	4人	271	強直性脊椎炎	0人
224	紫斑病性腎炎	35人	272	進行性骨化性繊維異形成症	0人
225	先天性腎性尿崩症	1人	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0人
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	0人	274	骨形成不全症	0人
227	オスラー病	0人	275	タナトフォリック骨異形成症	0人
228	閉塞性細気管支炎	0人	276	軟骨無形成症	3人
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	1人	277	リンパ管腫症／ゴーハム病	0人
230	肺胞低換気症候群	0人	278	巨大リンパ管奇形（頸部顔面病変）	0人
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	27人	279	巨大静脈奇形（頸部口腔咽頭びまん性病変）	0人
232	カーニー複合	0人	280	巨大動脈奇形（頸部顔面又は四肢病変）	0人
233	ウォルフラム症候群	0人	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0人
234	ベルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）	0人	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0人
235	副甲状腺機能低下症	2人	283	後天性赤芽球癆	0人
236	偽性副甲状腺機能低下症	5人	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0人
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0人	285	ファンコニ貧血	0人
238	ビタミンD抵抗性くる病／骨軟化症	0人	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0人
239	ビタミンD依存性くる病／骨軟化症	139人	287	エプスタイン症候群	0人
240	フェニルケトン尿症	0人	288	自己免疫性出血病Ⅷ	0人
241	高チロシン血症1型	0人	289	クロンカイト・カナダ症候群	0人
242	高チロシン血症2型	2人	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0人
243	高チロシン血症3型	0人	291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸）	0人
244	メープルシロップ尿症	0人	292	総排泄腔外反症	3人
245	プロピオン酸血症	0人	293	総排泄腔遺残	0人
246	メチルマロン酸血症	123人	294	先天性横隔膜ヘルニア	12人
247	イソ吉草酸血症	128人	295	乳幼児肝巨大血管腫	0人
248	グルコーストランスポーター1欠損症	100人	296	胆道閉塞症	0人
249	グルタル酸血症1型	4人	297	アラジール症候群	0人
250	グルタル酸血症2型	0人	298	遺伝性膀胱炎	0人
251	尿素サイクル異常症	0人	299	嚢胞性繊維症	0人
252	リジン尿性蛋白不耐症	0人	300	IgG4関連疾患	0人
253	先天性葉酸吸収不全	1人	301	黄斑ジストロフィー	0人
254	ポルフィリン症	0人	302	レーベル遺伝性視神経症	1人
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0人	303	アッシャー症候群	0人
256	筋型糖原病	1人	304	若年発症型両側性感音難聴	0人
257	肝型糖原病	0人	305	遅発性内リンパ水腫	0人
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	4人	306	好酸球性副鼻腔炎	0人

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・救急搬送患者地域連携受入加算
・歯科外来診療環境体制加算	・データ提出加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・医師事務作業補助体制加算1
・特定機能病院入院基本料	・精神科急性期医師配置加算
・臨床研修病院入院診療加算	・認知症ケア加算
・救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	・精神科リエゾンチーム加算
・超急性期脳卒中加算	・救命救急入院料3
・妊産婦緊急搬送入院加算	・救命救急入院料4
・診療録管理体制加算	・特定集中治療室管理料 3
・急性期看護補助体制加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・療養環境加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・小児入院医療管理料1
・無菌治療室管理加算	・短期滞在手術基本料 I・II
・重症皮膚潰瘍管理加算	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院支援加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 高度難聴指導管理料	・ 検体検査管理加算(IV)
・ 糖尿病合併症管理料	・ 植込型心電図検査
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 時間内歩行試験
・ がん患者指導管理料1	・ 胎児心エコー法
・ がん患者指導管理料2	・ ヘッドアップルティルト試験
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植)	・ 皮下連続式グルコース測定
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 外来リハビリテーション診療料	・ 神経学的検査
・ 外来放射線照射診療料	・ 補聴器適合検査
・ ニコチン依存症管理料	・ ロービジョン検査判断料
・ 地域連携診療計画管理料	・ コンタクトレンズ検査料1
・ がん治療連携計画策定料	・ 小児食物アレルギー負荷検査
・ がん治療連携管理料	・ 内服・点滴誘発試験
・ 認知症専門診断管理料	・ センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 持続血糖測定器加算
・ 薬剤管理指導料	・ 1回線量増加加算
・ 医療機器安全管理料1	・ 磁気による膀胱等刺激法
・ 医療機器安全管理料2	・ 画像診断管理加算1
・ 医療機器安全管理料(歯科)	・ 遠隔画像診断
・ 歯科治療総合医療管理料	・ ポジトロン断層撮影及びポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	・ CT撮影及びMRI撮影
・ 造血器腫瘍遺伝子検査	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ HPV核酸検出	・ 外来化学療法加算1
・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ 無菌製剤処理料
・ 検体検査管理加算Ⅰ・Ⅲ	・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・ がん患者リハビリテーション料	・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・ 集団コミュニケーション療法料	・ 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術
・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・ 両心室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両心室
・ 医療保護入院等診療料	・ ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術	・ 大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・ エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・ 補助人工心臓
・ エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・ 植込型補助人工心臓(拍動流型)
・ 透析液水質確保加算	・ 植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・ 一酸化窒素吸入療法	・ 経皮的動脈遮断術
・ 歯科技工加算	・ ダメージコントロール手術
・ 皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色種センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・ 体外衝撃波胆石破碎術
・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ 腹腔鏡下肝切除
・ 胃瘻造設術	・ 生体部分肝移植術
・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・ 腹腔鏡下腭体尾部腫瘍切除術
・ 治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・ 腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2	・ 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・ 同種死体肺移植術	・ 腹腔鏡下小切開副腎部分切除術・腹腔鏡下小切開腎摘出術・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・ 生体部分肺移植術	・ 同種死体腎移植術
・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・ 生体腎移植術
・ 経皮的冠動脈形成術	・ 膀胱水圧拡張術
・ 経皮的冠動脈ステント留置術	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 経皮的中隔心筋焼灼術	・ 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算	・遺伝学的検査
・内視鏡手術用支援機器加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・経カテーテル大動脈弁置換術	・
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・
・加悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横膈膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・
・輸血管理料(Ⅱ)	・
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・
・麻酔管理料(Ⅰ)、麻酔管理料(Ⅱ)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・定位放射線治療	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療加算	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・歯科矯正診断料	・
・歯科口腔リハビリテーション料2	・
・顎口腔機能診断料〔顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る)の手術前後における歯科矯正に係るもの〕	・
・CAD/CAM冠	・
・排尿自立指導料	・
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・他焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	・
・前眼部三次元画像解析	・
・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	・
・急性心筋梗塞に対するエポエチンベータ投与療法 急性心筋梗塞(再灌流療法の成功したものに限り)	・
・FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断 不明熱(画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る。)	・
・リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生省告示第五十九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	○1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	平成27年度 : 2回
部 検 の 状 況	部検症例数 40例 / 部検率 7.6%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
重度の支障のある難治性片頭痛患者における脳マッピングを用いた中枢感作の病態解明	平田 幸一	内科学（神経）	1,300,000	補委	日本学術振興会
母集団薬物動態解析による抗うつ薬の光学異性体血中濃度および薬力学予測法の確立	下田 和孝	精神神経医学	1,200,000	補委	日本学術振興会
L-セリン合成異常を伴う統合失調症を通じた病因の生物学的理解と疾患克服の試み	尾關 祐二	精神神経医学	900,000	補委	日本学術振興会
統合失調症・気分障害患者における突然死の素因探索と予防法の立案	岡安 寛明	精神神経医学	900,000	補委	日本学術振興会
ミルタザピンのエナンチオマー薬物動態解析による新たな治療薬候補分子の探索	林 有希	精神神経医学	1,000,000	補委	日本学術振興会
I型コラーゲン転写活性化因子(COLF2)の精製とcDNAクローニング	籾持 淳	皮膚科学	600,000	補委	日本学術振興会
甲状腺腫瘍における新規遺伝子HMGA2の制御機構	菱沼 昭	感染制御・臨床検査医学	1,000,000	補委	日本学術振興会
胃癌細胞における放射性ヨード治療の可能性の基礎的検討	小飼 貴彦	感染制御・臨床検査医学	1,000,000	補委	日本学術振興会
小児期の体重増加と肥満・代謝異常との関係を解明する探索的・系統的なコホート研究	有阪 治	小児科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
自閉症スペクトラム障害の社会相互性障害の新規治療薬とantioxidant機構	油井 邦雄	小児科学	600,000	補委	日本学術振興会
大腸癌化学療法の効果を予測するDNA修復蛋白群発現に関する研究	山口 悟	第一外科学	700,000	補委	日本学術振興会
cMyc-LAT1 axisを基盤とした胸腺上皮性悪性腫瘍治療戦略の確立	千田 雅之	呼吸器外科学	800,000	補委	日本学術振興会
血管細胞における血流のメカノトランスダクション機構	安藤 譲二	整形外科学	10,400,000	補委	日本学術振興会
腎癌におけるFHがん抑制遺伝子解析とメタボロミクスによるエネルギー代謝異常解析	釜井 隆男	泌尿器科学	1,800,000	補委	日本学術振興会
喘息気道炎症の嗅粘膜分泌異常への関与一気道リモデリングの嗅粘膜機能障害の解明一	春名 真一	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,400,000	補委	日本学術振興会
脂肪幹細胞を用いた再生組織付加prefabricated flapの基礎的研究	朝戸 裕貴	形成外科学	500,000	補委	日本学術振興会
D-アミノ酸オキシダーゼが脊髄侵害受容性シナプス伝達に与える影響	高薄 敏史	麻酔科学	1,500,000	補委	日本学術振興会
脊髄後角におけるβエンドルフィンの鎮痛機序の解明：サブスタンスP放出への影響	寺島 哲二	麻酔科学	800,000	補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌発生母細胞の同定とその臨床的意義	川又 均	口腔外科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
CXCR4システムを介した口腔癌の転移機構におけるmiR-518c-5pの役割	内田 大亮	口腔外科学	1,000,000	補委	日本学術振興会

CXCR4標的分子mGluR5を介した口腔癌の転移機構におけるmiR-30の役割	栗林 伸行	口腔外科学	900,000	補委	日本学術振興会
じん肺の診断基準及び手法に関する調査研究	荒川 浩明	放射線医学	代表者一括計上	補委	厚生労働省
子宮頸がんワクチンの有効性と安全性の評価に関する疫学研究	平田 幸一	内科学(神経)	代表者一括計上	補委	厚生労働省
脊椎インストゥルメンテーション患者にアフターケアは本当に必要か？全国労災病院と産業医科大学を含む多施設大規模調査(150701)	種市 洋	整形外科学	代表者一括計上	補委	厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	種市 洋	整形外科学	300,000	補委	厚生労働省
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究	山口 重樹	麻酔科学	200,000	補委	厚生労働省
新規疾患：TAFRO症候群の確立のための研究	小島 勝	病理診断学	50,000	補委	厚生労働省
早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究	簇持 淳	皮膚科学	400,000	補委	厚生労働省
先天性高インスリン血症に対するオクトレオチド持続皮下注療法の有効性・安全性に関する研究	有阪 治	小児科学	代表者一括計上	補委	AMED
消化器神経内分泌癌に対する標準治療の確立に関する研究	青木 琢	第二外科学	代表者一括計上	補委	AMED
乳幼児喘息に対するフルチカゾン間欠吸入と連日吸入の憎悪抑制効果に関する他施設共同二重盲検ランダム化比較試験	吉原 重美	小児科学	代表者一括計上	補委	AMED
ギランバレー症候群に対するエクリズマブの安全性と有効性を評価する前向き・多施設共同・第II相試験	平田 幸一	内科学(神経)	1,560,000	補委	AMED
治験の実施に関する研究 [g-CSF]	種市 洋	整形外科学	520,000	補委	AMED
スパーサー治療法の確立、臨床応用、適応決定	村上 昌雄	放射線治療センター	840,000	補委	AMED
MINtS検査 (NEJ021a) への症例登録	石井 芳樹	内科学(呼吸器・アレルギー)	640,000	補委	AMED
ナットウキナーゼによるランダム化プラセボ対照二重盲検試験 好酸球性副鼻腔炎術後再燃の局所ステロイド療法の確立	春名 眞一	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	650,000	補委	AMED
結節性硬化症におけるスペクトラム障害のmTOR阻害剤を用いた薬物治療に関する研究	油井 邦雄	小児科学	1,485,000	補委	AMED
臨床応用のための新規光感受性物質であるオリゴ糖連結クロリンを用いた癌細胞超選択的次世代光線力学療法の開発	中村 哲也	医療情報センター	3,000,000	補委	AMED
患者及び患者由来検体収集、臨床的検討	簇持 淳	皮膚科学	1,000,000	補委	AMED
分子プロファイリングによる新規標的の同定を通じた難治がん治療法開発	植木 敬介	腫瘍センター	1,000,000	補委	AMED

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Kageyama M, Yamauchi F, Masawa T, Nasuno T, Sakuma M, Abe S, Inoue T.	心臓血管内科	Percutaneous coronary intervention for spontaneous coronary artery dissection under intravascular ultrasound guidance.	Int J Cardiovasc Res 10.1007/s00380-015-0787-5 2015/12/1
2	Masawa T, Abe S, Toyoda S, Sakuma M, Nasuno T, Kageyama M, Tokura M, Koizumi S, Taguchi I, Inoue T.	心臓血管内科	Comparison of the performance of zotarolimus- and everolimus-eluting stents by optical coherence tomography and coronary angiography.	Heart Vessels 10.1007/s00380-015-0728-3 2015/8/1
3	Nishida H, Abe S, Tajima E, Saito F, Koyabu Y, Fukuda R, Yamauchi F, Sakuma M, Toyoda S, Kikuchi M, Inoue T.	心臓血管内科	Anti-atherosclerotic effects of eicosapentaenoic acid in patients undergoing percutaneous coronary intervention.	J Clin Physiol 21-29 2016/2/1
4	Toyoda S, Inami S, Kato T, Tsukada K, Nakamoto A, Kikegawa Y, Suzuki A, Anraku Y, Node K, Inoue T.	心臓血管内科	Choice of antihypertensive combination therapy based on daily salt intake.	Am J Med Sci 160-166 2015/9/1
5	Toyoda S, Inami S, Masawa T, Shibasaki I, Yamada Y, Fukuda R, Kubo T, Nakajima M, Kato H, Inoue T.	心臓血管内科	Hypopharyngeal perforation caused by intraoperative transesophageal echocardiography.	J Med Ultrasonics 247-250 2015/4/1
6	Yamauchi F, Adachi H, Tomono J, Toyoda S, Iwamatsu K, Sakuma M, Nakajima T, Oshima S, Inoue T.	心臓血管内科	Effect of a cardiac rehabilitation program on exercise oscillatory ventilation in Japanese patients with heart failure.	Heart Vessels 10.1007/s00380-015-0782-x 2015/12/1

7	Satonaka H, Nagata D, Takahashi M, Kiyosue A, Myojo M, Fujita D, Ishimitsu T, Nagano T, Nagai R, Hirata Y	循環器・腎臓内科	Involvement of P2Y12 receptor in vascular smooth muscle inflammatory changes via MCP-1 upregulation and monocyte adhesion	Am J Physiol Heart Circ Physiol H853-H861 2015/4/1
8	Sugawara R, Horinaka S, Yagi H, Ishimura K, Honda T	循環器・腎臓内科	Central blood pressure estimation by using N-point moving average method in the brachial pulse wave	Hypertens Res 336-341 2015/5/1
9	Okamura M, Takekawa H, Okabe R, Suzuki K, Hirata K	神経内科	Vertebral artery Doppler waveform patterns for exclusive diagnosis of basilar artery stenosis and occlusion.	J Med Ultrason 83-89 2016
10	Suzuki K, Miyamoto M, Miyamoto T, Suzuki S, Inoue Y, Murata M, Matsui K, Nishida S, Hayashida K, Usui A, Ueki Y, Nakamura M, Hirata K	神経内科	The effect of comorbidity of restless legs syndrome and migraine on sleep and mood: an integration of multicenter data.	Sleep Biol Rhythms 187-191 2016
11	Suzuki K, Miyamoto T, Miyamoto M, Maeda H, Nokura K, Tohyama J, Hirata K, Shimizu T, Kanbayashi T	神経内科	Hypocretin-1 levels in the cerebrospinal fluid of patients with Percheron artery infarction with or without midbrain involvement: A case series	Medicine (Baltimore) e4281 2016
12	Okamura M, Takekawa H, Okabe R, Suzuki K, Hirata K	神経内科	Vertebral artery Doppler waveform patterns for exclusive diagnosis of basilar artery stenosis and occlusion.	J Med Ultrason 43 (1): 83-89, 2016.
13	Suzuki K, Miyamoto T, Miyamoto M, Suzuki S, Numao A, Watanabe Y, Tatsumoto M, Sakuta H, Watanabe Y, Fujita H, Iwanami M, Sada T, Kadowaki T, Hashimoto K, Trenkwalder C, Hirata K	神経内科	Evaluation of cutoff scores for the Parkinson's disease sleep scale-2.	Acta Neurol Scand 131 (6): 426-430, 2015.
14	Tatsumoto M, Misawa S, Kokubun N, Sekiguchi Y, Hirata K, Kuwabara S, Yuki N	神経内科	Delayed facial weakness in Guillain-Barré and miller fisher syndromes.	Muscle Nerve 51 (6): 811-814, 201

15	Suzuki K, Miyamoto M, Miyamoto T, Inoue Y, Matsui K, Nishida S, Hayashida K, Usui A, Ueki Y, Nakamura M, Murata M, Numao A, Watanabe Y, Suzuki S.	神経内科	The Prevalence and Characteristics of Primary Headache and Dream-Enacting Behaviour in Japanese Patients with Narcolepsy or Idiopathic Hypersomnia	A Multi-Centre Cross-Sectional Study. PLoS One 10 (9): e0139229, 2015.
16	Suzuki K, Kawasaki A, Miyamoto M, Miyamoto T, Kanbayashi T, Sato M, Shimizu T, Hirata K	神経内科	Insulinoma masquerading as rapid eye movement sleep behavior disorder	case series and literature review. Medicine 94 (25): 1-6, 2015.
17	Suzuki K, Miyamoto M, Miyamoto T, Hirata K	神経内科	Restless legs syndrome and leg motor restlessness in Parkinson's disease.	Parkinsons Disease - : -, 2015.
18	Suzuki K, Miyamoto M, Miyamoto T, Numao A, Suzuki S, Sakuta H, Iwasaki A, Watanabe Y, Fujita H, Hirata K	神経内科	Sleep apnoea headache in obstructive sleep apnoea syndrome patients presenting with morning headache: comparison of the ICHD-2 and ICHD-3 beta criteria.	J Headache Pain - : -, 2015.
19	Aso, Y, Jojima T, Iijima T, Suzuki K, Terasawa T, Fukushima M, Momobayashi M, Hara K, Takebayashi K, Kasai K, Inukai T.	内分泌代謝内科	Sitagliptin, a dipeptidyl peptidase-4 inhibitor, increases the number of circulating CD34+CXCR4+cells in patients with type 2 diabetes.	Endocrine 659-664 2015/12/1
20	Hase I, Morimoto K, Sakagami T, Kazumi Y, Ishii Y, van Ingen J	呼吸器・アレルギー内科	Disseminated Mycobacterium gordonae and Mycobacterium mantenii infection with elevated anti-IFN- γ neutralizing autoantibodies.	J Infect Chemother.
21	Ishii Y	呼吸器・アレルギー内科	Acute Exacerbation of IPF -The Concept Was Proposed in Japan, But Why Was It Not Recognized in Western Countries?-	Idiopathic Pulmonary Fibrosis.
22	Okada H, Kurasawa K, Yamazaki R, Tanaka A, Arai S, Owada T, Maezawa R, Ishii Y.	呼吸器・アレルギー内科	Clinical features of organizing pneumonia associated with rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol.
23	Shiobara T, Chibana K, Watanabe T, Arai R, Horigane Y, Nakamura Y, Hayashi Y, Shimizu Y, Takemasa A, Ishii Y.	呼吸器・アレルギー内科	Dipeptidyl peptidase-4 is highly expressed in bronchial epithelial cells of untreated asthma and it increases cell proliferation along with fibronectin production in airway constitutive cells.	Respir Res. 28 2016/3/1

24	Tatewaki M, Hirata H, Ikeno Y, Akutsu I, Sekiguchi S, Suzuki N, Sugiyama K, Arima M, Kurasawa K, Fukuda T, Shima D, Fukushima Y.	呼吸器・アレルギー内科	Prescription of adrenaline auto-injectors to 1145 Japanese outdoor workers in 2015.	Allergol Int.
25	Yoshida N, Hirata H, Watanabe M, Sugiyama K, Arima M, Fukushima Y, Ishii Y	呼吸器・アレルギー内科	Improved sensitivity to venom specific-immunoglobulin E by spiking with the allergen component in Japanese patients suspected of Hymenoptera venom allergy.	Allergol Int.
26	Nagasawa J, Kurasawa K, Hanaoka R	リウマチ・膠原病内科	Rituximab improved systemic lupus erythematosus-associated pulmonary alveolar proteinosis without decreasing anti-GM-CSF antibody levels	Lupus. 2016 Feb 2
27	Yoshio T, Okamoto H, Kurasawa K, Dei Y, Hirohata S, Minota S.	リウマチ・膠原病内科	IL-6, IL-8, IP-10, MCP-1 and G-CSF are significantly increased in cerebrospinal fluid but not in sera of patients with central neuropsychiatric lupus erythematosus.	Lupus. 2016 Feb 3. pii: 0961203316629556.
28	Akira Osone, Reiko Arai, Rina Hakamada, and Kazutaka Shimoda.	精神神経科	Impact of lifestyle-related disease on conversion and reversion in Japanese patients with mild cognitive impairment: 12 months of follow-up	International Journal of Geriatric Psychiatry 2016 31(7):740-8, 2016.
29	Akira Osone, Arai, Hakamada, Rina Hakamada, Kazutaka Shimoda	精神神経科	Cognitive and brain reserve in conversion and reversion in patients with mild cognitive impairment over 12 months of follow-up Journal of Clinical and Experimental Neuropsychology	J Clin Exp Neuropsychol. 2016 Jun 13:1-10
30	Yuji Ozeki, Masae Sekine, Kumiko Fujii, Takashi Watanabe, Hiroaki Okayasu, Yumiko Takano, Takahiro Shinozaki, Akiko Aoki, Hideaki Aoki, Harunobu Mori, Kazufumi Akiyama,	精神神経科	Phosphoserine phosphatase activity is elevated and negatively correlated with serum D-serine concentration in schizophrenia patients.	Psychiatry Research 237344–350, 2016

31	Yuki Hayashi, Takashi Watanabe, Akiko Aoki, Shin Ishiguro, Mikito Ueda, Kazufumi Akiyama, Kazuko Kato, Yoshimasa Inoue, Shoko Tsuchimine, Norio Yasui-Furukori, Kazutaka Shimoda	精神神経科	Impact of CYP2D6*10 on the pharmacokinetics of enantiomers of mirtazapine and its desmethylated metabolite in Japanese psychiatric patients treated with mirtazapine	Pharmacopsychiatry 48:279-285, 2015
32	Arakawa H, Kishimoto T, Ashizawa K, Kato K, Okamoto K, Honma K, Hayashi S, Akira M	放射線科	Asbestosis and other pulmonary fibrosis in asbestos-exposed workers: high-resolution CT features with pathological correlations	European Radiology 1485-1492 2016
33	Arisaka O, Ichikawa G, Koyama S, Sairenchi T.	小児科	Increase in BMI from 1.5 to 3 Years of Age is a Risk for Cardiometabolic Disease.	Jacobs J Obest
34	Arisaka O, Ichikawa G, Koyama S, Shimura N.	小児科	Anthropometric indices and metabolic co-morbidities.	J Pediatr
35	Arisaka O, Ichikawa G, Koyama S, Shimura N, Imataka G, Kurosawa H, Nitta A	小児科	Early Adiposity Rebound and Small Dense Low-Density Lipoprotein in Childhood Obesity.	J Obes Weight Loss Ther
36	Ichikawa J, Ichikawa G, Tsuboi Y, Kuribayashi R, Watabe Y, Sairenchi T, Suzumura H, Arisaka O.	小児科	Safety of lipid emulsion in very low-birthweight infants according to cytokine level.	Pediatr Int.
37	Imataka G, Hagsawa S, Nitta A, Hirabayashi H, Suzumura H, Arisaka O.	小児科	Long-term survival of full trisomy 13 in a 14 year old male: a case report.	Eur Rev Med Pharmacol Sci.

38	Imataka G, Suzumura H, Arisaka O.	小児科	Clinical features and survival in individuals with trisomy 18: A retrospective one-center study of 44 patients who received intensive care treatments.	Mol Med Rep.
39	Imataka G, Nakajima I, Goto K, Konno W, Hirabayashi H, Arisaka O.	小児科	Drop episodes improved after tracheotomy: a case of Coffin-Lowry syndrome associated with obstructive sleep apnea syndrome.	Eur Rev Med Pharmacol Sci.
40	Imataka G, Arisue K.	小児科	Epilepsy-related automobile accidents in Japan: legal changes about a precedent and penal regulations.	Eur Rev Med Pharmacol Sci.
41	Imataka G, Wake K, Suzuki M, Yamanouchi H, Arisaka O.	小児科	Acute encephalopathy associated with hemolytic uremic syndrome caused by Escherichia coli O157: H7 and rotavirus infection.	Eur Rev Med Pharmacol Sci.
42	Imataka G, Ohwada Y, Shimura N, Yoshihara S, Arisaka O	小児科	Del(18)(q12.2q21.1) syndrome: a case report and clinical review of the literature	Eur Rev Med Pharmacol Sci 3241-3245 2015/8/1
43	Imataka G, Arisaka O	小児科	Brain hypothermia therapy for childhood acute encephalopathy based on : clinical evidence	Exp Ther Med 1624-1626 2015/9/1
44	Kato M, Ishida H, Koh K, Inagaki J, Kato K, Goto H, Kaneko T, Cho Y, Hashii Y, Kurosawa H, Takita J, Hamamoto K, Inoue M, Sawada A, Suzuki R, Kato K.	小児科	Comparison of chemotherapeutic agents as a myeloablative conditioning with total body irradiation for pediatric acute lymphoblastic leukemia: A study from the pediatric ALL working group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation.	Pediatr Blood Cancer.
45	Kato M, Sato Y, Fukushima K, Okuya M, Kurosawa H, Kuwashima S, Honma K, Okamoto K, Tsuchioka T, Arisaka O	小児科	Clear cell sarcoma of the kidney with calcification and a novel chromosomal abnormality: A case report.	Daiagnostic Pathology (On line)

46	Koyama S, Sairenchi T, Shimura N, Arisaka O	小児科	Association between timing of adiposity rebound and body weight gain during infancy.	Journal of Pediatrics
47	Koyama S, Arisaka O.	小児科	Reply: To Timing of adiposity rebound and prevalence of obesity.	J Pediatr
48	Kurosawa H, Tanizawa A, Tono C, Watanabe A, Shima H, Ito M, Yuza Y, Hotta N, Muramatsu H, Okada M, Kajiwara R, Saito AM, Mizutani S,	小児科	Leukostasis in Children and Adolescents with Chronic Myeloid Leukemia: Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group.	Pediatr Blood Cancer
49	Sato Y, Kurosawa H, Fukushima K, Okuya M, Arisaka O	小児科	Burkitt-Type Acute Lymphoblastic Leukemia With Precursor B-Cell Immunophenotype and Partial Tetrasomy of 1q: A Case Report	Medicine (Baltimore) e2904 2016/3/1
50	Sato Y, Kurosawa H, Sakamoto S, Kuwashima S, Hashimoto T, Okamoto K, Tsuchioka T, Fukushima K, Arisaka O	小児科	Usefulness of 18F-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography for Follow-Up of 13-cis-Retinoic Acid Treatment for Residual Neuroblastoma After Myeloablative Chemotherapy	Medicine (Baltimore) e1290 2015/8/1
51	Yoshihara S, Munkhbayarlakh S, Makino S, Ito C, Logii N, Dashdemberel S, Sagara H, Fukuda T, Arisaka O	小児科	Prevalence of childhood asthma in Ulaanbaatar, Mongolia in 2009	Allergol Int
52	Yoshihara S, Kanno N, Fukuda H, Arisaka O, Arita M, Sekine K, Yamaguchi K, Tsuchida A, Yamada Y, Watanabe T, Shimizu T, Nishikawa K, Nishimuta T	小児科	Caregiver treatment satisfaction is improved together with children's asthma control: Prospective study for budesonide monotherapy in school-aged children with uncontrolled asthma symptoms	Allergol Int

53	Yoshihara S, Fukuda H, Tamura M, Arisaka O, Ikeda M, Fukuda N, Tsuji T, Hasegawa S, Kanno N, Teraoka M, Wakiguchi H, Aoki Y, Igarashi H, Terada A, Hasegawa M, Manki A	小児科	Efficacy and Safety of Salmeterol/fluticasone Combination Therapy in Infants and Preschool Children with Asthma Insufficiently Controlled by Inhaled Corticosteroids	Drug Research 371-376 2016
54	Watabe Y, Arisaka O, Miyake N, Ichikawa G, Koyama S, Shimura N.	小児科	Estimation of LDL Particle Size Using Lipid Indices: A Population-Based Study of 1578 Schoolchildren.	Metab Syndr Relat Disord
55	Hamaguchi S, Tezuka N, Nagao M	麻酔科	Rocuronium and sugammadex under TOF monitoring on mECT	J Anesth 815 2015/4/1
56	Hamaguchi S, Otani T, Furukawa N	麻酔科	Usefulness of Measuring QT Dispersion for Anesthesia and Surgical Procedures.	J Anesth Clin Res 585 2015/11/1
57	Hajime Kuroda, Yasuo Imai, Hidetsugu Yamagishi, Yoshihiko Ueda, Kazuko Kuroso, Yoko Oishi, Hitoshi Ohashi, Akinori Yamashita, Yoshiko Yashiro, Hisaki Fukushima	病理診断科	Aberrant keratin 7 and 20 expression in triple-negative carcinoma of the breast	Annals of Diagnostic Pathology 36-39 2016/2/1
58	Hitoshi Satomura, Masanobu Nakajima, Kinro Sasaki, Satoru Yamaguchi, Yasushi Domeki, Masakazu Takahashi, Hiroto Muroi, Tsukasa Kubo, Maiko Kikuchi, Haruka Otomo, Keisuke Ihara, Hiroyuki	第一外科	Phase 1 Dose-Escalation Study of Docetaxel, Cisplatin, and 5-Fluorouracil Combination Chemotherapy in Patients With Advanced Esophageal Carcinoma	International Surgery 1153-1158 2015/6/1
59	Ihara K, Yamaguchi S, Ueno N, Tani Y, Shida Y, Ogata H, Domeki Y, Okamoto K, Nakajima M, Sasaki K, Tsuchioka T, Mitomi H, Kato H	第一外科	Expression of DNA double-strand break repair proteins predicts the response and prognosis of colorectal cancer patients undergoing oxaliplatin-based chemotherapy	Oncol Rep 1349-1355 2016/3/1

60	Ihara K, Yamaguchi S, Shida Y, Ogata H, Domeki Y, Okamoto K, Nakajima M, Sasaki K, Tsuchioka T, Kato H	第一外科	Poor nutritional status before and during chemotherapy leads to worse prognosis in unresectable advanced or recurrent colorectal cancer	Int Surg 2015/6/1
61	M Nakajima, H Kato, M Sakai, A Sano, T Miyazaki, M Sohda, T Inose, T Yokobori, N Tanaka, S Suzuki, N Masuda, M Fukuchi, H Kuwano	第一外科	Significant relationship between preoperative serum concentration of anti-heat shock protein 70 antibody and postoperative morbidity in patients with esophageal cancer	Eur Surg 117-122 2015/6/1
62	Nakajima M, Kato H, Sakai M, Sano A, Miyazaki T, Sohda M, Inose T, Tanaka N, Suzuki S, Masuda N, Fukuchi M, Kuwano H	第一外科	Planned Esophagectomy after Neoadjuvant Hyperthermo-Chemoradiotherapy using Weekly Low-Dose Docetaxel and Hyperthermia for Advanced Esophageal Carcinomas	Hepatogastroenterology 887-91 2015/6/1
63	Sasaki K, Miyachi K, Yoda N, Onodera S, Satomura H, Otsuka K, Nakajima M, Yamaguchi S, Sunagawa M, Kato H	第一外科	Long-term comparison of boomerang-shaped jejunal interposition and billroth-I reconstruction after distal gastrectomy	World J Surg 1127-33 2015/5/1
64	Tani Y, Nakajima M, Kikuchi M, Ihara K, Muroi H, Takahashi M, Domeki Y, Okamoto K, Yamaguchi S, Sasaki K, Tsuchioka T, Sakamoto S, Kato H	第一外科	¹⁸ F-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography for Evaluating the Response to Neoadjuvant Chemotherapy in Advanced Esophageal Cancer	Anticancer Res 367-73 2016/1/1
65	Ishizuka M, Kubota K, Kita J, Shimoda M, Kato M, Mori S, Iso Y, Yamagishi H, Kojima M.	第二外科	Aspartate aminotransferase-to-platelet ratio index is associated with liver cirrhosis in patients undergoing surgery for hepatocellular carcinoma.	J Surg Res. 2015 Mar;194(1):63-8
66	Matsumoto T, Ishizuka M, Iso Y, Kita J, Kubota K.	第二外科	Mini-Laparotomy for Superior Mesenteric Artery Aneurysm Due to Takayasu's Arteritis.	Int Surg. 2015 Apr;100(4):765-9
67	Matsumoto T, Tanaka N, Nagai M, Koike D, Sakuraoka Y, Kubota K.	第二外科	A case of gastric heterotopic pancreatitis resected by laparoscopic surgery.	Int Surg. 2015 Apr;100(4):678-82

68	Mori S, Kita J, Kato M, Shimoda M, Kubota K.	第二外科	Usefulness of a new inflammation-based scoring system for prognostication of patients with hepatocellular carcinoma after hepatectomy.	Am J Surg. 2015 Jan;209(1):187-93
69	Shibuya N, Inoue K, Tanaka G, Akimoto K, Kubota K.	第二外科	Augmented pentose phosphate pathway plays critical roles in colorectal carcinomas.	Oncology. 2015;88(5):309-19
70	Shimizu T, Ishizuka M, Kubota K.	第二外科	The preoperative serum C-reactive protein level is a useful predictor of surgical site infections in patients undergoing appendectomy.	Surg Today. 2015 Nov;45(11):1404-10
71	Shimoda M, Kubota K, Shimizu T, Katoh M.	第二外科	Randomized clinical trial of adjuvant chemotherapy with S-1 versus gemcitabine after pancreatic cancer resection.	Br J Surg. 2015 Jun;102(7):746-54
72	Aoki T, Kubota K.	第二外科	Preoperative portal vein embolization for hepatocellular carcinoma: Consensus and controversy.	World J Hepatol. 2016 Mar 28;8(9):439-45
73	Ishizuka M, Nagata H, Takagi K, Iwasaki Y, Shibuya N, Kubota K.	第二外科	Clinical Significance of the C-Reactive Protein to Albumin Ratio for Survival After Surgery for Colorectal Cancer.	Ann Surg Oncol. 2016 Mar;23(3):900-7
74	Ishizuka M, Terasaki A, Kubota K.	第二外科	Exacerbation of prothrombin time-international normalized ratio before second polymyxin B cartridge hemoperfusion predicts poor outcome of patients with severe sepsis and/or septic shock.	J Surg Res. 2016 Jan;200(1):308-14
75	Matsumoto T, Kubota K, Aoki T, Iso Y, Kato M, Shimoda M.	第二外科	Clinical Impact of Anatomical Liver Resection for Hepatocellular Carcinoma with Pathologically Proven Portal Vein Invasion.	World J Surg. 2016 Feb;40(2):402-11

76	Ishizuka M, Kubota K, Nemoto T, Shimoda M, Kato M, Iso Y, Tago K.	第二外科	Administration of adjuvant oral tegafur/uracil chemotherapy post hepatocellular carcinoma resection: A randomized controlled trial.	Asian J Surg. 2016 Jul;39(3):149-54
77	Shimizu T, Ishizuka M, Kubota K.	第二外科	A lower neutrophil to lymphocyte ratio is closely associated with catarrhal appendicitis versus severe appendicitis.	Surg Today. 2016 Jan;46(1):84-89
78	Go Tsuchiya, Takayuki Hori, Nobuyuki Onizawa, Naoyuki Otani, Sawako Tanaka-Nakadate, Tatou Iseki, Motoshi Ouchi, Keitaro Hayashi, Promsuk Jutabha, Toru Oba, Hirotsugu	心臓・血管外科	Molecular Mechanism of the Urate-lowering Effects of Calcium Channel Blockers	Dokkyo Journal of Medical Sciences 23-29 2016/3/1
79	Shibasaki I, Fukuda H, Yamada Y, Kuwata T, Hori T, Ogawa H, Tsuchiya G	心臓・血管外科	Effects of Continuous Infusion of Low-dose Human Atrial Natriuretic Peptide(hANP) on the Lungs during Cardiac Surgery	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 364-369 2015/8/1
80	Yamada Y, Fukuda H, Shibasaki I, Matsushita Y, Ogata K, Inoue Y, Gon S, Kuwata T, Hori T, Tsuchiya G, Ogawa H, Takei Y, Shimizu R, Seki M, Kiriya Y, Kato T,	心臓・血管外科	Modified Bentall operation with bioprosthetic valve and Valsalva graft conduit: the "slit skirt" technique	DOKKYO JOURNAL OF MEDICAL SCIENCES 159-162
81	Inoue T, Chida M, Inaba H, Tamura M, Kobayashi S, Sado T	呼吸器外科	Juvenile catamenial pneumothorax: institutional report and review	J cardiothorac surg 83 2015/6/1
82	Karube Y, Chida M, Nishihira M, Inoue T, Araki O, Kobayashi S, Sado T	呼吸器外科	Back-table procedure and auto-lung transplantation for locally advanced lung cancer: a case report	J cardiothorac surg 3 2016/1/1
83	Taneichi Hiroshi	整形外科	Update on pathology and surgical treatment for adult spinal deformity.	Journal of Orthopaedic Science 116-123 2016

84	Kamai T, Abe H,Arai K,Murakami S,Sakamoto S,Kaji Y,Yoshida K	泌尿器科	Radical nephrectomy and regional lymph node dissection for locally advanced type 2 papillary renal cell carcinoma in an at-risk individual from a family with hereditary leiomyomatosis and renal cell cancer: a case report	BMC Cancer 232 2016/3/1
85	Matsushima H, Nagata M, Katsuki Y, Ota I, Miyake K, George HH. Beiko, Andrzej Grzybowski	眼科	Decreased visual acuity resulting from glistening and sub-surface nanoglistening formation in intraocular lenses: A retrospective analysis of 5 cases.	Saudi Journal of Ophthalmology 29(4): 259-263, 2015.
86	Kiyoshi Hasegawa, Yutaka Torii, Rina Kato, Yasuhiro Udagawa, Ichio Fukasawa.	産科婦人科	The problems of cervical conization for postmenopausal patients.	Eur J Gyneacol Oncol 327-331 2016
87	Motegi E, Hasegawa K, Kawai S, Kiuchi K, Kosaka N, Mochizuki Y, Fukasawa I.	産科婦人科	Levonorgestrel-releasing intrauterine system placement for severe uterine cervical stenosis after conization: two case reports.	J Med Case Rep. 56 2016/3/1
88	Daisuke Uchida, Hitoshi Kawamata, Fumie Omotehara2, Yoshihiro Miwa, Hideki Horiuchi, Tadashi Furihata, Masatsugu Tachibana, Takahiro Fujimori	口腔外科	Overexpression of TSC-22 (transforming growth factor- β -stimulated clone-22) causes marked obesity, splenic abnormality and B cell lymphoma in transgenic mice	Oncotarget 14310-23 2016/3/1
89	Uchida D, Kawamata H, Inaba F, Fukasawa I, Fujimori T	口腔外科	Chemoresistance of cancer cells: Oncogenic mutation of the p53 tumor suppressor gene.	.Current Signal Transduction Therapy Vol.11:3-8,2016.
90	Fujisawa D, Sekine HOKano TSakurai HShimizu T	形成外科・美容外科	Ex Vivo Prefabricated Rat Skin Flap Using Cell Sheets and an Arteriovenous Vascular Bundle	Plast Reconstr Surg Glob Open e424 2015/6/1
91	Yamanishi T, Kaga K, Fuse M, Shibata C, Uchiyama	排泄機能センター	Neuromodulation for the Treatment of Lower Urinary Tract Symptoms.	Low Urin Tract Symptoms. 2015 Sep;7(3):121-32.

92	Yamanishi T, Kaga K, Fuse M, Shibata C, Kamai T, Uchiyama T.	排泄機能センター	Six-year follow up of silodosin monotherapy for the treatment of lower urinary tract symptoms suggestive of benign prostatic hyperplasia: What are the factors for continuation or withdrawal?	Int J Urol. 2015 Dec;22(12):1143-8
93	Yamanishi T, Kaga K, Fuse M, Shibata C, Kamai T, Uchiyama T	排泄機能センター	The role of muscarinic receptor subtypes on carbachol-induced contraction of normal human detrusor and overactive detrusor associated with benign prostatic hyperplasia	Journal Pharmacological Sciences 65-70 2015/6/1
94	Nakajima T, Yasuda T, Koide S, Yamasoba T, Obi S, Toyoda S, Sato Y, Inoue T, Kano Y.	ハートセンター	Repetitive restriction of muscle blood flow enhances mTOR signaling pathways in a rat model.	Heart Vessels 10.1007/s00380- 016-0801-6 2016/2/1

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
6				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	○有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	○有・無
・ 手順書の主な内容 本学の倫理審査委員会について、審査の流れ・手続きについて	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	○有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	○有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理の対象、利益相反管理委員会について、利益相反管理委員会の審査の流れ	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 3 回 (持回審査のみ)

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回 (及びe-learning)
・ 研修の主な内容 講習会：医学研究に関する指針等について、本学倫理審査委員会について e-learning教材「CITI Japan」：医学研究者標準コースの履修	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

プライマリ・ケアを中心とした幅広い診療能力の習得を目的とする初期研修了後は、レジデントとして後期研修に続きます。

当院の後期研修は、大学病院として各種学会認定施設を取得し、各領域別の専門分野での充実した研修と高度で良質な医療を提供できる専門医の育成を目標としています。

当院レジデントプログラムはこれらの点を考慮して専門医研修が効果的に行われるように、診療各科の特徴を生かした教育プログラムとして42の後期研修プログラムを備え、高度な研修を実施しています。

【専門研修コース一覧】

心臓・血管内科

- ・心臓・血管内科不整脈部門専門医コース
- ・心臓・血管内科心不全部門専門医コース
- ・心臓・血管内科虚血部門専門医コース

消化器内科

- ・消化器病学会専門医コース

血液・腫瘍内科

- ・日本血液学会専門医コース

循環器・腎臓内科

- ・循環器専門医育成コース
- ・腎臓・透析専門医育成コース

神経内科

- ・日本脳卒中学会専門医コース
- ・日本頭痛学会専門医コース
- ・日本神経学会専門医コース

内分泌代謝内科

- ・糖尿病専門医養成コース
- ・内分泌代謝科専門医養成コース

呼吸器・アレルギー内科

- ・呼吸器専門医コース
- ・腫瘍内科医（呼吸器系）専門医コース
- ・呼吸器内視鏡専門医コース
- ・リウマチ・膠原病内科専門医コース
- ・日本アレルギー学会専門医コース

精神神経科

- ・精神科指導医コース

皮膚科

- ・日本皮膚科学会専門医コース

放射線科

- ・放射線科専門医コース

小児科

- ・小児科専門医コース

第一外科

- ・日本外科学会専門医コース

第二外科

- ・消化器外科専門医コース
- ・肝胆膵高度技能医コース

心臓・血管外科

- ・心臓血管外科専門医取得コース

呼吸器外科

- ・呼吸器外科専門医取得コース

脳神経外科

- ・脳神経外科専門医取得コース

整形外科

- ・日本整形外科学会専門医取得コース
- ・日本脊椎脊髄病学会認定・脊椎脊髄外科指導医取得コース

泌尿器科

- ・泌尿器科専門医取得コース

眼科

- ・眼科専門医研修コース

耳鼻咽喉・頭頸部外科

- ・耳鼻咽喉・頭頸部外科専門医養成コース

産科婦人科

- ・産科婦人科専門医（婦人科腫瘍）コース
- ・産科婦人科専門医（生殖医療）コース

麻酔部

- ・麻酔科専門医コース

救急医学

- ・救急・集中治療専門医コース

口腔外科

- ・口腔外科専門医・有病者歯科認定医取得コース

リハビリテーション科

- ・リハビリテーション科専門医コース

健康管理科

- ・消化器がん検診認定医コース

形成外科・美容外科

- ・形成外科専門医養成コース

感染制御・臨床検査医学

- ・臨床検査専門医コース

病理部

- ・病理専門医コース

2 研修の実績

研修医の人数	88人（初期・研修歯科医4名含む）
--------	-------------------

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者（ ）内は院内標榜科名

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
豊田 茂	心臓・血管内科	臨床研修主任指導医	23年	
室久 俊光	消化器内科	臨床研修主任指導医	31年	
高橋 渉	血液・腫瘍内科	臨床研修主任指導医	17年	
堀中 繁夫	循環器・腎臓内科	臨床研修主任指導医	34年	
國分 則人	神経内科	臨床研修主任指導医	20年	
鈴木 國弘	内分泌代謝内科	臨床研修主任指導医	14年	
三好 祐顕	呼吸器・アレルギー科 （呼吸器・アレルギー内科）	臨床研修主任指導医	19年	
大曾根 彰	精神科 （精神神経科）	臨床研修主任指導医	31年	
嶋岡 弥生	皮膚科	臨床研修主任指導医	13年	
桑島 成子	放射線科	臨床研修主任指導医	32年	
今高 城治	小児科	臨床研修主任指導医	21年	
佐々木 欣郎	外科 （第1外科）	臨床研修主任指導医	30年	
佐々木 欣郎	小児外科 （第1外科）	臨床研修主任指導医	30年	
高木 和俊	外科 （第2外科）	臨床研修主任指導医	26年	
福田 宏嗣	心臓・血管外科	臨床研修主任指導医	29年	
佐渡 哲	呼吸器外科	臨床研修主任指導医	22年	
金 彪	脳神経外科	臨床研修主任指導医	36年	
竹内 大作	整形外科	臨床研修主任指導医	18年	
安土 正裕	泌尿器科	臨床研修主任指導医	25年	

宮下 博行	眼科	臨床研修主任指導医	11年
中島 逸男	頭頸部・耳鼻咽喉科 (耳鼻咽喉・頭頸部外科)	臨床研修主任指導医	21年
茂木 絵美	産婦人科 (産科婦人科)	臨床研修主任指導医	11年
内田 大亮	歯科口腔外科 (口腔外科)	臨床研修主任指導医	21年
鈴木 大雅	リハビリテーション科	臨床研修主任指導医	29年
梅川 浩平	形成外科・美容外科	臨床研修主任指導医	13年
池田 知史	麻酔科	臨床研修主任指導医	19年
菊池 仁	救急科 (救命救急センター)	臨床研修主任指導医	12年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・ 研修の主な内容 1

平成27年度 第1回放射線部勉強会

「感染拡大を防止するためにあなたができること」

・ 研修の期間・実施回数：平成27年4月21日 17：30～18：30

・ 研修の参加人数：56名

・ 研修の主な内容 2

第28回日本老年泌尿器科学会予行発表会

「ビデオウロダイナミックスにて膀胱尿道逆流の合併が判明した多系統萎縮症の一例」

・ 研修の期間・実施回数：平成27年4月24日 17：30～18：00

・ 研修の参加人数：18名

・ 研修の主な内容 3

平成27年度 第2回放射線部勉強会

「新生児医療の現状(ディベロップメンタルケアを中心に)」

・ 研修の期間・実施回数：平成27年4月28日 17：30～18：30

・ 研修の参加人数：56名

・ 研修の主な内容 4

平成27年度 第3回放射線部勉強会

「第12回福島災害医療セミナーならびに第2回放射線被ばく相談員講習会に参加して」

・ 研修の期間・実施回数：平成27年5月26日 17：30～18：30

・ 研修の参加人数：42名

・ 研修の主な内容 5

平成27年度 第4回放射線部勉強会

「患者移乗について」

・ 研修の期間・実施回数：平成27年6月24日 17：30～18：30

・ 研修の参加人数：29名

・ 研修の主な内容 6

平成27年度 第5回放射線部勉強会

「医療安全管理者養成講習会ならびに全国災害拠点病院等災害医療従事者研修に参加して」

・ 研修の期間・実施回数：平成27年7月2日 17：30～18：30

・ 研修の参加人数：36名

・ 研修の主な内容 7

平成27年度 第1回放射線部定例勉強会

「KYT：危険予知訓練」

・ 研修の期間・実施回数：平成27年8月25日 17：30～18：30

・ 研修の参加人数：50名

・ 研修の主な内容 8

平成27年度 第6回放射線部勉強会

「第5回診療放射線技師新人研修ならびに第8回血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定講習会に参加して」

・ 研修の期間・実施回数：平成27年9月29日 17：30～18：30

・ 研修の参加人数：39名

・ 研修の主な内容 9

第2回獨協医科大学3病院放射線部合同研修会

・ 研修の期間・実施回数：平成27年10月17日 10：30～15：00

・ 研修の参加人数：35名

・研修の主な内容 10

平成27年度 第7回放射線部勉強会

「第20回診療放射線技師実習施設指導者等養成講習会ならびに第7回ROCセミナーに参加して」

- ・研修の期間・実施回数：平成27年11月24日 17：30～18：30
- ・研修の参加人数：32名

・研修の主な内容 11

平成27年度 第2回放射線部定例勉強会

「リスクコミュニケーションにおける放射線生物学」

「医療被ばくにおけるリスクコミュニケーション」

「緊急(災害)被ばくにおけるリスクコミュニケーション」

- ・研修の期間・実施回数：平成27年11月27日 17：30～18：30
- ・研修の参加人数：59名

・研修の主な内容 12

平成27年度 第9回放射線部勉強会

「各部門の紹介について」、「部内のハラスメントの実態について」

- ・研修の期間・実施回数：平成28年2月24日 17：30～18：30
- ・研修の参加人数：52名

・研修の主な内容 13

平成27年度 第10回放射線部勉強会

「第11回栃木県放射線技師会学術研究発表会予行会」

- ・研修の期間・実施回数：平成28年3月2日 17：30～18：30
- ・研修の参加人数：32名

・研修の主な内容 14

平成27年度 第3回放射線部定例勉強会

「臨床医から見る、放射線スタッフの役割」

・研修の期間・実施回数：平成28年3月11日 17：30～18：30

・研修の参加人数：45名

・研修の主な内容 15

平成27年度 役職者DVD研修

「管理職がパワハラ加害者にならないために」

・研修の期間・実施回数：平成28年3月8日、17日いずれか 17：00～17：30

・研修の参加人数：19名

・研修の主な内容 16

・鉄代謝とフェリチン その臨床的意義について

・研修の期間・実施回数：平成27年4月16日

・研修の参加人数：34名

・研修の主な内容 17

・血液ガスについて

・研修の期間・実施回数：平成27年4月24日

・研修の参加人数：33名

・研修の主な内容 18

・第64回日本医学検査学会 予演会

・研修の期間・実施回数：平成27年5月11日

・研修の参加人数：27名

・研修の主な内容 19

・多発性骨髄腫の病態と検査について

・研修の期間・実施回数：平成27年5月28日

・研修の参加人数：37名

・研修の主な内容 20

- ・敗血症ガイドラインの改訂とPCT検査について

- ・研修の期間・実施回数：平成27年6月1日

- ・研修の参加人数：34名

- ・研修の主な内容 21

- ・骨髄線維症の病態およびジャカビの有用性について

- ・研修の期間・実施回数：平成27年6月19日

- ・研修の参加人数：32名

- ・研修の主な内容 22

- ・UF1000i尿フローサイトについて

- ・研修の期間・実施回数：平成27年7月2日

- ・研修の参加人数：32名

- ・研修の主な内容 23

- ・腎機能検査の基礎知識から新規尿中バイオマーカー-L-FABPまで

- ・研修の期間・実施回数：平成27年7月27日

- ・研修の参加人数：32名

- ・研修の主な内容 24

- ・基礎からわかる血液凝固検査①PT&APTTを中心に

- ・研修の期間・実施回数：平成27年8月21日

- ・研修の参加人数：44名

- ・研修の主な内容 25

- ・AFP-L3分画勉強会

- ・研修の期間・実施回数：平成27年9月4日

- ・研修の参加人数：35名

- ・研修の主な内容 26

- ・臨床データ・検体を研究利用する際に考慮すべきこと

・研修の期間・実施回数：平成27年8月21日

・研修の主な内容 27

・広域周波オシレーション法による呼吸抵抗検査について

・研修の期間・実施回数：平成27年9月11日

・研修の参加人数：13名

・研修の主な内容 28

・日本臨床検査自動化学会第47回大会 予演会

・研修の期間・実施回数：平成27年10月1日

・研修の参加人数：23名

・研修の主な内容 29

・第35回栃木県医学検査学会予演会

・研修の期間・実施回数：平成27年10月5日

・研修の参加人数：30名

・研修の主な内容 30

・平成27年度日臨技関甲信支部医学検査学会(第52回)予演会

・研修の期間・実施回数：平成27年10月7日

・研修の参加人数：29名

・研修の主な内容 31

・基礎からわかる凝固検査②FDP&Dダイマーを中心に

・研修の期間・実施回数：平成27年10月22日

・研修の参加人数：30名

・研修の主な内容 32

・ISO15189に求められる精度管理

・研修の期間・実施回数：平成27年11月6日

・研修の参加人数：26名

・ 研修の主な内容 33

・ RASKETによる大腸癌RAS遺伝子変異検査（病理部との合同）

・ 研修の期間・実施回数：平成27年11月25日

・ 研修の参加人数：26名

・ 研修の主な内容 34

・ 甲状腺ホルモン合成と甲状腺関連検査

・ 研修の期間・実施回数：平成27年12月11日

・ 研修の参加人数：36名

・ 研修の主な内容 35

・ 新入職員と夜間当直者のための基礎からわかる血液凝固検査

・ 研修の期間・実施回数：平成27年12月17日

・ 研修の参加人数：38名

・ 研修の主な内容 36

・ 標準採血法ガイドラインに基づいた採血手順

・ 研修の期間・実施回数：平成27年1月21日

・ 研修の参加人数：61名

・ 研修の主な内容 37

・ インフルエンザ関連情報・インフルエンザ迅速キットについて

・ 研修の期間・実施回数：平成28年2月3日

・ 研修の参加人数：46名

・ 研修の主な内容 37

・ 新規採用医薬品についての研修

薬剤師のためのベッドサイドティーチング 他

・ 研修の期間・実施回数：40回

・ 研修の参加人数：1回40～50名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・ 研修の主な内容 1

放射線部装置説明会

「教育医療棟ポータブル撮影操作研修会」

- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年5月8日、11日いずれか 17：30～18：00
- ・ 研修の参加人数：55名

・ 研修の主な内容 2

放射線部装置説明会

「ポータブル(Mira)について」

- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年6月25日、26日いずれか 17：30～18：30
- ・ 研修の参加人数：53名

・ 研修の主な内容 3

放射線部装置説明会

「泌尿器科外来(分室)装置更新に伴う説明会」

- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年8月27日、28日いずれか 17：15～18：15
- ・ 研修の参加人数：54名

・ 研修の主な内容 4

放射線部危機管理勉強会

「伝票運用説明会」

- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年9月11日 17：30～18：30
- ・ 研修の参加人数：24名

・ 研修の主な内容 5

放射線部内勉強会

「富士フィルム製品の紹介」

- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年10月15日 17：30～18：30

・研修の参加人数：40名

・研修の主な内容 6

平成27年度 第8回放射線部勉強会

「国際医療福祉大学 臨床実習終了発表会」

・研修の期間・実施回数：平成27年12月10日 17：30～18：30

・研修の参加人数：50名

・研修の主な内容 7

機器選定のための説明会(CT)

・研修の期間・実施回数：平成28年2月16日 17：30～18：30

・研修の参加人数：19名

・研修の主な内容 8

機器選定のための説明会(血管)

・研修の期間・実施回数：平成28年2月19日 17：30～18：30

・研修の参加人数：13名

・研修の主な内容 9

機器選定のための説明会(一般)

・研修の期間・実施回数：平成28年2月26日 17：30～18：30

・研修の参加人数：24名

・研修の主な内容 10

臨床検査センター全体集会、H26年度私立医大講習会出張報告

・研修の期間・実施回数：平成27年4月6日

・研修の参加人数：59名

・研修の主な内容 11

・シスメックスカスタマートレーニング伝達講習会

・研修の期間・実施回数：平成27年5月11日

- ・研修の参加人数：8名

・ 研修の主な内容 12

- ・ ガウンテクニック実技研修会（同一内容を3回実施）
- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年5月13, 20, 26日
(いずれか1日に参加)

- ・ 研修の参加人数：36名

・ 研修の主な内容 13

- ・ ケンタウルスXPカスタマーレーニング伝達講習会
- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年6月22日
- ・ 研修の参加人数：20名

・ 研修の主な内容 14

- ・ 臨地実習終了報告会（病理部と合同）
- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年7月3日
- ・ 研修の参加人数：47名

・ 研修の主な内容 15

- ・ CS-5100カスタマーレーニング伝達講習会
- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年7月15日
- ・ 研修の参加人数：28名

・ 研修の主な内容 16

- ・ BM9130、BM6070伝達講習会
- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年8月26日
- ・ 研修の参加人数：28名

・ 研修の主な内容 17

- ・ ①ISO15189審査の準備、キャリアパス、②宿日直輸血連絡事項16
- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年9月1日

- ・研修の参加人数：29名

・ 研修の主な内容 18

- ・ PSG画面確認の方法とPSGの内容説明会
- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年10月27日
- ・ 研修の参加人数：32名

・ 研修の主な内容 19

- ・ 宿日直輸血検査連絡事項
- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年10月29日
- ・ 研修の参加人数：45名

・ 研修の主な内容 20

- ・ ISO15189取得のためのQMSとLEAPを使ったSOP作成
- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年11月19日
- ・ 研修の参加人数：16名

・ 研修の主な内容 21

- ・ 年末年始業務連絡事項
- ・ 研修の期間・実施回数：平成27年12月22日
- ・ 研修の参加人数：41名

・ 研修の主な内容 22

- ・ ISO15189取得に向けてのキックオフ会議
- ・ 研修の期間・実施回数：平成28年1月20日
- ・ 研修の参加人数：63名

・ 研修の主な内容 23

- ・ 輸血システム・機器変更に伴うお知らせ、QMSについて
- ・ 研修の期間・平成28年1月27日
- ・ 研修の参加人数：87名

・ 研修の主な内容 24

- ・ ①臨床化学検査異常値報告・②タクロリムス・シクロスポリン検査・③浸透圧検査
- ・ 研修の期間・実施回数：平成28年2月19日
- ・ 研修の参加人数：44名

・ 研修の主な内容 25

- ・ 倫理規定・患者情報の守秘義務
- ・ 研修の期間・平成28年3月18日
- ・ 研修の参加人数：87名

・ 研修の主な内容 26

- ・ 感染対策～安全に業務を行うために～
- ・ 研修の期間・平成28年3月22日
- ・ 研修の参加人数：87名

・ 研修の主な内容 27

- ・ 廃棄物・毒劇物の管理方法
- ・ 研修の期間・平成28年3月24日
- ・ 研修の参加人数：87名

・ 研修の主な内容 28

- ・ 患者急変時の対応について・災害時、緊急時の対応
- ・ 研修の期間・平成28年3月28日
- ・ 研修の参加人数：87名

・ 研修の主な内容 29

- ・ 新採用看護職者に関する研修
- ・ 研修の期間・実施回数 4月・7回
- ・ 研修の参加人数：721名

・ 研修の主な内容 30

- ・看護研究定例発表会

- ・研修の期間・実施回数：6月 11月・2回

- ・研修の参加人数：895名

- ・研修の主な内容 31

- ・緩和ケアに関する研修会

- ・研修の期間・実施回数：11月・1回

- ・研修の参加人数：120名

- ・研修の主な内容 32

- ・診療報酬に関する研修会

- ・研修の期間・実施回数：3月・1回

- ・研修の参加人数：130名

- ・研修の主な内容 33

- ・看護管理に関する研修会

- ・研修の期間・実施回数：8月・1回

- ・研修の参加人数：30名

- ・研修の主な内容 34

- ・BLS取得に関する研修会

- ・研修の期間・実施回数：6月・7月・4回

- ・研修の参加人数：98名

- ・研修の主な内容 35

- ・看護必要度に関する研修会

- ・研修の期間・実施回数：4月・1回

- ・研修の参加人数：120名

- ・研修の主な内容 36

- ・主任研修会

・研修の期間・実施回数：4月～3月・6回

・研修の参加人数：250名

・研修の主な内容 37

・医療安全（看護部教育委員会主催）に関する研修

・研修の期間・実施回数：4月～8月 5回

・研修の参加人数：446名

・研修の主な内容 38

・看護研究（看護部教育委員会主催）に関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～12月 10回

・研修の参加人数：657名

・研修の主な内容 39

・フィジカルアセスメント（看護部教育委員会主催）に関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～11月 3回

・研修の参加人数：221名

・研修の主な内容 40

・看護記録（看護部教育委員会主催）に関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～11月 7回

・研修の参加人数：427名

・研修の主な内容 41

・倫理（看護部教育委員会主催）に関する研修

・研修の期間・実施回数：7月～11月 7回

・研修の参加人数：281名

・研修の主な内容 42

・ケースレポート（看護部教育委員会主催）に関する研修

・研修の期間・実施回数：6月～11月 2回

・研修の参加人数：162名

・研修の主な内容 43

・リーダーシップ（看護部教育委員会主催）に関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～11月 4回

・研修の参加人数：205名

・研修の主な内容 44

・プリセプター（看護部教育委員会主催）に関する研修

・研修の期間・実施回数：5月～1月 4回

・研修の参加人数：394名

・研修の主な内容 45

・シミュレーション（看護部教育委員会主催）に関する研修

・研修の期間・実施回数：7月～9月 4回

・研修の参加人数：254名

・研修の主な内容 46

・リフレッシュ（看護部教育委員会主催）研修

・研修の期間・実施回数：7月 1回

・研修の参加人数：101名

・研修の主な内容 47

・癌看護（看護部教育委員会主催）に関する研修

・研修の期間・実施回数：6月～10月 4回

・研修の参加人数：178名

・研修の主な内容 48

・救急看護（看護部教育委員会主催）に関する研修

・研修の期間・実施回数：7月～11月 4回

・研修の参加人数：148名

・ 研修の主な内容 49

- ・ 感染看護（看護部教育委員会主催）に関する研修
- ・ 研修の期間・実施回数：5月～9月 4回
- ・ 研修の参加人数：190名

・ 研修の主な内容 50

- ・ 糖尿病看護（看護部教育委員会主催）に関する研修
- ・ 研修の期間・実施回数：5月～10月 4回
- ・ 研修の参加人数：211名

・ 研修の主な内容 51

- ・ 皮膚・排泄看護（看護部教育委員会主催）に関する研修
- ・ 研修の期間・実施回数：5月～11月 4回
- ・ 研修の参加人数：296名

・ 研修の主な内容 52

- ・ 母性・新生児集中ケアに関する研修
- ・ 研修の期間・実施回数：5月～9月 4回
- ・ 研修の参加人数：71名

・ 研修の主な内容 53

- ・ 臨床実習指導（看護部教育委員会主催）に関する研修
- ・ 研修の期間・実施回数：4月～1月 4回
- ・ 研修の参加人数：272名

・ 研修の主な内容 54

- ・ 補助者（看護部教育委員会主催）に関する研修
- ・ 研修の期間・実施回数：5月～9月 4回
- ・ 研修の参加人数：326名

・ 研修の主な内容 55

・ 中途採用者（看護部教育委員会主催）に関する研修

・ 研修の期間・実施回数：7月～11月 3回

・ 研修の参加人数：31名

・ 研修の主な内容 56

・ 感染防止(看護部ICT委員会)に関する研修

・ 研修の期間・実施回数：5月～3月 7回

・ 研修の参加人数：330名

・ 研修の主な内容 57

・ N S T（看護部 N S T 委員会含む・栄養サポートチーム）に関する研修

・ 研修の期間・実施回数：5月～3月 8回

・ 研修の参加人数：522名

・ 研修の主な内容 58

・ スキンケアに関する研修・・・看護部スキンケア委員会

・ 研修の期間・実施回数：5月～3月 8回

・ 研修の参加人数：330名

・ 研修の主な内容 59

・ 医療安全に関する研修・・・看護部医療安全委員会

・ 研修の期間・実施回数：5月～3月 9回

・ 研修の参加人数：379名

・ 研修の主な内容 60

・ 口腔ケアに関する研修・・・看護部口腔ケア委員会

・ 研修の期間・実施回数：5月～3月 8回

・ 研修の参加人数：391名

・ 研修の主な内容 61

・ インジェクショントレーナー養成研修・・・看護部静脈注射委員会

<ul style="list-style-type: none"> ・研修の期間・実施回数：6月～8月 7回 ・研修の参加人数：146名 ・<u>研修の主な内容 62</u> <ul style="list-style-type: none"> ・インジェクショントレーナーフォローアップ研修・・・静脈注射委員会 ・研修の期間・実施回数：11月 1回 ・研修の参加人数：39名 ・<u>研修の主な内容 63</u> <ul style="list-style-type: none"> ・退院支援リンクナース研修会・・・退院支援委員会 ・研修の期間・実施回数：5月～2月 7回 ・研修の参加人数：262名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ○ 2. 現状	
管理責任者氏名	病院長 平石秀幸	
管理担当者氏名	庶務課 鶴見 好邦 診療記録管理部 白川 幸央 総合医療連携室 落合 守広 経理課 篠原 尚 薬剤部 本田 雅巳	医事保険課 神永 久人 医療安全推進センター 金子 一 感染制御センター 小川 栄一 臨床研修センター 賀長 隆

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	庶務課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療記録管理部
		看護記録	診療記録管理部
		検査所見記録	診療記録管理部
		エックス線写真	診療記録管理部
		紹介状	診療記録管理部
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療記録管理部	診療録は、1患者1ID制で診療記録管理部が1元管理しており、電子カルテについては、真正性・見読性・保存性の確保に基づき、医療情報委員会が運用・管理している。 診療録の院外持ち出しは原則禁止としており、やむを得ず、院外に持ち出す場合には、匿名化されている情報については所属長、匿名化されていない情報は所定の申請書により所属長及び病院長の許可を得ることになっている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事保険課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事保険課
		高度の医療の研修の実績	庶務課 臨床研修センター
		閲覧実績	庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	総合医療連携室 医事保険課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課 薬剤部
一 規則第一条の十一第一	高に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進センター
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進センター
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進センター
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進センター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御センター
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御センター
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御センター
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御センター
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部 経理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経理課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経理課
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経理課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進センター
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御センター
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進センター
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進センター
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	庶務課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全推進センター
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進センター
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進センター 感染制御センター
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全推進センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進センター
		職員研修の実施状況	庶務課 医療安全推進センター 感染制御センター SDセンター
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進センター		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ○ 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 平石 秀幸
閲覧担当者氏名	庶務課長 鶴見 好邦
閲覧の求めに応じる場所	事務部
閲覧の手続の概要 ① 閲覧希望者より当院所定の申請書の提出。 ② ①により、病院長までの上申。 ③ ②により、本人確認（身分証明書等の提示）の後に情報開示。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	○有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：①安全管理に関する基本的な考え方②医療安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項③医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針④事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針⑤医療事故発生時の対応に関する基本方針⑥患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針⑦患者からの相談への対応に関する基本方針⑧その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無 (○有・無)・ 開催状況：年 1 2 回・ 活動の主な内容：①医療安全対策の検討及び研究に関すること②医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること③医療安全対策のための職員に対する指示に関すること④医療安全対策のために行う提言に関すること⑤医療事故防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること⑥その他医療安全対策に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 1 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">①平成 2 7 年 4 月 1 日 (水) 午後 2 時 4 5 分から 4 時 0 0 分 (対象者：平成 2 7 年度新入教職員・・・医療従事者等)②平成 2 7 年 4 月 2 日 (木) 午後 2 時 2 0 分から 3 時 2 0 分 (対象者：平成 2 7 年度新入看護師)③平成 2 7 年 4 月 1 0 日 (金) 午後 0 時から 0 時 4 0 分 (対象者：平成 2 7 年度新臨床研修医)	

形態：オリエンテーション

講師：①医療安全推進センター 安全管理者 橋本 美雪

②医療安全推進センター 事務長 金子 一

③医療安全推進センター 安全管理者 辰元 宗人

演題：①「当院での医療安全の取り組みについて」

②「当院における個人情報保護について」

③「医療安全講習会 臨床研修医」

内容：「当院の医療安全体制」並びに「当院の個人情報保護」について解説がなされた。

参加者：① 33名

② 104名

③ 39名

○第1回 開催日：平成27年6月3日（水）

午後5時30分から午後6時30分

形態：講習会

講師：東京海上日動火災保険株式会社・本店損害サービス部

医療賠償損害サービス室 主任 原 啓二 先生

演題：「医療現場の安全管理を考える ～個人情報の保護～」

内容：「個人情報保護法、漏えい事例の説明等について解説がなされた。

参加者：一般教職員753名

○第2回 開催日：平成27年6月12日（木）

午後5時30分から午後6時30分

形態：講習会

講師：①放射線部 後藤 和則 氏

②放射線科 教授 楫 靖 教授

演題：①「被ばく低減施設認定WGの活動状況について」

②「被ばくと甲状腺癌について」

内容：「被ばくのリスクの提示、検査管理等の説明」「甲状腺被ばくの影響や甲状腺癌の発生」について解説がなされた。

参加者：433名

○第3回 開催日：平成27年7月16日（木）

午後5時15分から6時15分

形態：講習会

講師：①放射線部 部長 楫 靖 先生

②放射線部 主任看護師 栃木 茂子 氏

演題：①「安全なMRI検査のために：事故例に学ぶ(ビデオ供覧)」

②「MRI検査の注意点 ー看護師の立場からー」

①「補足事項」

内容：2015年度に完成した教育医療棟の1階MRI室の使用方法等について解説がなされた。

参加者：658名

○第4回 開催日：平成27年7月23日（木）

午後5時15分から午後6時15分

形態：講習会

講師：自治医科大学付属病院 輸血・細胞移植部 部長 室井 一男 教授

演題：「輸血療法とチーム医療」

内容：輸血に関する看護師研修、チーム医療の推進等について解説がなされた。

参加者：550名

○第5回 開催日：平成27年9月9日（水）

午後5時から6時

形態：講習会

講師：①薬剤部 副部長 岩瀬 利康 先生

②看護学部 教授 宮本 雅之 先生

演題：①「当院における睡眠薬処方と転倒・転落」

②「睡眠薬と転倒リスク」

内容：睡眠薬と転倒・転落の繋がりについての解説がなされた。

参加者：377名

○第6回 開催日：①平成27年9月10日（木）午後5時から午後6時

②平成27年9月11日（金）午後5時30分から午後6時30分

形態：実技講習会

講師：救命医学 学内准教授 松島 久雄 先生

演 題：「院内パドル式除細動器の安全使用について」

①日本光電の除細動器 日本光電

②PHILIPS 製の除細動器 フクダ電子

内 容：

院内パドル式除細動器の安全な操作方法について、実技を通して解説がなされた

参加者：① 14名(悪天候のため講演会中止。昨年度講演会のDVD聴講と実技講習が実施された。)

② 249名

○第7回 開催日：平成27年9月30日(水)

午後5時30分から午後7時

形 態：講習会

講 師：一般社団法人 栃木県医師会 常任理事 宮原 保之 先生

演 題：「医療事故調査制度について」

内 容：10月1日より開始された医療事故調査制度の流れや内容について解説がな
さ
れた。

参加者：328名

○第8回 開催日：1日目 平成27年11月25日(水)

2日目 平成27年12月8日(火)

3日目 平成28年1月15日(金)

午後5時から午後6時30分

形 態：講習会(DVD 放映会)

講 師：一般社団法人 栃木県医師会 常任理事 宮原 保之 先生

演 題：「医療事故調査制度について」

内 容：

10月1日より開始された医療事故調査制度の流れや内容について解説がなされ

参加者：1日目 186名 2日目 174名 3日目 253名

○第9回 開催日：平成28年2月17日(水)

午後5時～6時

形 態：講習会

講 師：麻酔科 教授 山口 重樹 先生

演 題：「オピオイドの適正使用について」

内 容：オピオイドの適正な使用方法等について解説がなされた。

参加者：355名

○第10回 開催日：平成28年3月7日（月）

午後5時～6時30分

形 態：講習会

講 師：東海大学医学部附属病院 副院長・看護部長 横田 弘子 氏

演 題：「「医療事故調査制度」に適切に対応するための備えについて」

内 容：東海大学医学部附属病院の体制、医療事故調査制度の対応について解説がなされた。

参加者：322名

○第11回 開催日：平成28年3月17日（木）

午後5時15分～6時15分

形 態：講習会

講 師：輸血部 篠原 茂 技師

輸血部 高橋 渉 先生

演 題：「院内の輸血関連インシデント事例報告」

内 容：2015年度輸血関連インシデント事例内容、要因、再発防止の取り組みについて解説がなされた。

参加者：179名

○第12回 開催日：平成28年3月23日（水）

午後5時～6時

形 態：講習会

講 師：リスクマネジャー委員会委員

演 題：「平成27年度リスクマネジャー小委員会における活動内容報告会」

内 容：各リスクマネジャー小委員会の年間活動内容及び検証結果について発表した。

参加者：162名

○ビデオ視聴

形 態：医療安全推進課管理ビデオ視聴

視聴者数：451名(平成28年3月31日現在)

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (○有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

【タイトル】

採血取り間違い

【情報】

●患者の指示が端末から発行がされ、発行されたバーコードラベルは、患者が変わっても、続けて出力される。

●一度発行されたバーコードラベルは、確定をクリックしただけでは再発行はされない。再発行の際は、「出力済み分の再発行」をクリックする。

●バーコードラベルのプリンターと、オーダーリングのPCの位置は、部署ごとに様々である。なお、バーコードラベルのプリンターは一台である。

【事例概要】

医師は、患者Bの手術に使用する交差試験用採血指示を出し、バーコードラベルを1枚発行したが、プリンターに放置した状態であった。

患者Aの担当看護師は、入院時の採血一式のオーダー（計5枚）を確認後、患者Aのバーコードラベルを出力する。その際、すでに患者Bのラベルは出力されて状態であり、計6枚ラベルがあった。看護師は、6枚のラベルで検体を準備し、患者Aの採血を実施し、検体を提出した。

患者Bの担当看護師は、交差試験用採血のラベルがないため、出力するがすでに出力済みであり、ラベル出力ができなかった。そのため、「出力済み分の再発行」をクリックし、再発行を行い、患者Bの採血を実施し検体を提出した。

翌日、輸血部で患者Bの交差試験用検体が2本あり検査したところ、血液型が異なっていたことで発覚した。

【検証】

- 指示された氏名、検体内容、検体数とラベルの枚数の確認を怠った。
- 指示されている数と検体の数が違っていることに気づかず、採血を実施してしまった。
- 血液型、交差試験を同時に採血してはならないことを知らず、患者Bのバーコードラベルを患者Aで準備し採血してしまった。
- 患者の指示が端末から発行され、1台のプリンターでバーコードラベルが発行されるために同時に端末から発行されたバーコードラベルが、患者が変わっても続けて出力されてしまった。
- すべての項目のラベルが同時に発行され、再発行も容易にできる。

【改善策】

- 患者氏名、ID発行時、準備時、採血前、終了後に確認することを徹底する。
- 緊急時に指示された場合は、バーコードラベルと検体を看護師2名でチェックする。
- 血液型と交差試験は同時に採血しないルールを順守する。
- 患者又はIDが変わったら空白のバーコードラベルが入るシステムの修正。

【現在】

- 患者又はIDが変わったら空白のバーコードラベルが入るシステムに変更。
- 同インシデント報告はない

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	○有・無																								
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>制定：平成19年10月1日 改訂：平成24年1月18日 改訂：平成27年10月1日</p> <p>・ 院内感染防止対策に関する基本的な考え方</p> <p>・ 院内感染防止に関する基本的事項</p> <p>・ 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針</p> <p>・ 感染事例報告などの医療にかかわる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</p> <p>・ 施設内感染事例発生時の対応に関する基本方針</p> <p>・ 患者等に対する当該指針の閲覧にする基本方針</p> <p>・ 患者からの相談への対応に関する基本方針</p> <p>・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>																									
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回																								
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>1) 院内ラウンドの報告 2) 病原体の検出報告 (MRSA、緑膿菌、血液培養陽性、薬剤耐性菌、CDの検出状況等) 3) 感染症治療薬使用状況 (毎月の抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬、第4世代セフェム系抗菌薬、抗真菌薬) 4) 届出感染症等の発生報告 5) その他</p> <p>・ 開催状況：</p> <table border="0"><tr><td>第1回</td><td>平成27年4月28日</td><td>第7回</td><td>平成27年10月27日</td></tr><tr><td>第2回</td><td>平成27年5月26日</td><td>第8回</td><td>平成27年11月24日</td></tr><tr><td>第3回</td><td>平成27年6月30日</td><td>第9回</td><td>平成27年12月22日</td></tr><tr><td>第4回</td><td>平成27年7月28日</td><td>第10回</td><td>平成28年1月26日</td></tr><tr><td>第5回</td><td>平成27年8月25日</td><td>第11回</td><td>平成28年2月23日</td></tr><tr><td>第6回</td><td>平成27年9月29日</td><td>第12回</td><td>平成28年3月29日</td></tr></table>		第1回	平成27年4月28日	第7回	平成27年10月27日	第2回	平成27年5月26日	第8回	平成27年11月24日	第3回	平成27年6月30日	第9回	平成27年12月22日	第4回	平成27年7月28日	第10回	平成28年1月26日	第5回	平成27年8月25日	第11回	平成28年2月23日	第6回	平成27年9月29日	第12回	平成28年3月29日
第1回	平成27年4月28日	第7回	平成27年10月27日																						
第2回	平成27年5月26日	第8回	平成27年11月24日																						
第3回	平成27年6月30日	第9回	平成27年12月22日																						
第4回	平成27年7月28日	第10回	平成28年1月26日																						
第5回	平成27年8月25日	第11回	平成28年2月23日																						
第6回	平成27年9月29日	第12回	平成28年3月29日																						
② 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	全教職員対象 年7回																								
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○新入職者オリエンテーション (平成28年度4月採用予定者)</p> <p>・ 日程及び内容：平成28年3月11日(金)、3月18日(金)</p> <p>場 所：教室棟 125番教室、 講 師：早川 千亜紀 (看護部主任、感染制御センター専従・感染制御実践看護師)</p> <p>受講数：168名</p> <p>○研修医オリエンテーション</p> <p>・ 日程及び内容</p> <p>平成27年4月7日(火) 13:00～17:00 演習 『手洗いと手指消毒効果』・『N95マスクフィットテスト』・『PPE着脱』 講義 『グループワーク SAVE!』</p> <p>平成27年4月9日(火) 13:00～17:00</p>																									

演習手洗いと手指消毒効果判定, グループ討論
講義 『研修医へメッセージ』・『抗菌薬の基礎』
『研修医として適切に対処してほしい疾患』・『職業感染曝露防』

- ・場 所：センター棟4階大会議室
- ・講 師：感染制御センタースタッフ（医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師など）
- ・受 講 数：39名

○新規採用者オリエンテーション

- ・日程及び内容：採用月に30分程度実施
- ・対 象 者：医師（後期研修医含）、医療従事者、事務など
- ・場 所：病院3階中会議室No.2、他
- ・講 義：「身近にある感染の危険性」
- ・演 習：「N95マスクの正しい脱着」（医師のみ）
- ・講 師：早川 千亜紀（看護部主任、感染制御センター専従・感染制御実践看護師）
- ・受 講 数：医師32名、医療従事者・事務など37名

○院内感染防止対策講習会（全教職員対象）

- ・第1回：『海外渡航と感染症』
日 時：平成27年6月2日(火) 17:10～18:10
場 所：関湊記念ホール
講 師：牧江 俊雄先生（成田空港検疫所情報管理室長）
受 講 数：957名
- ・第2回：『フィリピン・東南アジア地区における医療の現状と看護師の役割』
日 時：平成27年6月9日(水) 17:10～18:10
場 所：関湊記念ホール
講 師：Prof・Efrelym A. Iellamo先生（国立フィリピン大学マニラ校看護学部）
受 講 数：557名
- ・第3回：『感染制御からみた病院環境整備』
日 時：平成27年9月7日(月) 17:10～18:10
場 所：関湊記念ホール
講 師：足立 友秀先生（東栄部品株式会社 代表取締役社長）
受 講 数：689名
- ・第4回：『結核病床のない病院で求められる感染対策』
日 時：平成27年11月24日(木) 17:10～18:10
場 所：関湊記念ホール
講 師：浦川 美奈子先生（公益財団法人結核予防会結核研究所）
受 講 数：592名
- ・第5回：『インフルエンザとノロウイルス感染症』
日 時：平成27年12月8日(火) 17:00～18:10
場 所：関湊記念ホール
講 師：照屋 勝治先生
（国立研究開発法人国立国際医療センター エイズ治療・研究開発C）
受 講 数：432名
- ・第6回：『ICT活動報告』
日 時：平成28年3月15日(水) 17:00～17:50
場 所：臨床医学棟10階講堂
講演①：「A病院における針刺し・切創の現状把握と問題点」
演 者：松浦 美和（看護部 ICT）
講演②：「血液浄化センターにおける手指衛生に関する遵守率を高めるための取り組み」
演 者：大山 純子（看護部 血液浄化センター）
講演③：「血液腫瘍内科病棟における浮遊粒子性物質、落下菌数調査に基づいた環境整備」
演 者：星野 浩一（薬剤部 薬剤師）
受 講 数：455名

○「海外渡航と感染症」DVD上映会（計1回）

視聴者数：294名

○ビデオ視聴会

視聴者数：981名

○部署別講習会

- ・放射線部対象講習会
内 容：講義「放射線撮影業務における感染症対策」
日 時：平成27年4月21日(火)17:30～18:30
場 所：臨床医学棟10階講堂
講 師：早川 千亜紀（看護部主任、感染制御センター専従・感染制御実践看護師）
受 講 数：56名

- ・リネン業者対象講習会
 内容：講義「院内感染を防止するために～リネン交換を安全に行いましょう～」
 日時：平成27年5月20日(水)10:30～10:30
 場所：地価1階 栄久事務所
 講師：早川 千亜紀 (看護部主任、感染制御センター専従・感染制御実践看護師)
 受講数：26名
- ・委託業者対象講習会
 内容：講義「インフルエンザ対策・ノロウイルス対策、空調管理」
 日時：平成28年2月8日(月)、2月10日(水)、2月15日(月)、2月17日(水)
 10:30～、15:30～ 各30分間
 場所：教育医療棟7階会議室
 講師：早川 千亜紀 (看護部主任、感染制御センター専従・感染制御実践看護師)
 受講数：368名

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (○有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 感染症起因菌検出時に臨床検査センターから主治医および感染制御センターへその都度報告される。その感染症の届出を要するものについて、速やかに提出されない場合、感染制御センターから主治医へ届出提出を促している。
 - また、入院患者および職員の感染症罹患情報を「健康観察把握票」に記載し、随時感染制御センターへ提出することになっている。感染制御センターでは「健康観察把握票」をもとに感染対策状況を確認し、指導している。
 - 全ての職員に配付している医療安全管理マニュアル(ポケット版)に感染症の届出の手順を明記している。
 - 職員対して周知・伝達が必要な情報は、職員専用デジタルサイネージに掲載し情報提供をしている。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">①-1 当院における睡眠薬処方と転倒・転落①-2 睡眠薬と転倒リスク② オピオイドの適正使用について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (○有・無)・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○手順書の内容 医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、外来患者への医薬品使用、在宅患者への医薬品使用、病棟における医薬品の管理、入院患者への医薬品使用、医薬品情報の収集・管理・提供、手術・麻酔部門、救命救急センター及び集中治療室、輸血・血液管理部門、生命維持管理装置領域、臨床検査部門、画像診断部門、歯科領域、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修、特に安全管理が必要な医薬品（ハイリスク薬）、院内製剤。○実施状況 手順書に従って業務を行なっているか、担当の薬剤師が各部署の実施状況を、チェック表をもとに、最低1年に1回調査する。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無)<ul style="list-style-type: none">○添付文書 ・IF(インタビューフォーム) ・製薬メーカー医薬品情報センター ・文献○製薬メーカーMR ・製薬企業ホームページ ・PMDAからの情報 ・行政からの通知文書○取引卸からの情報 ・取引卸のホームページ ・インターネット情報・ 未承認等の医薬品の使用の情報の収集 各診療科に使用状況のアンケートを実施中・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">①散剤瓶、自動錠剤分包機、自動注射剤調剤機(ピッキングマシン)への薬剤の充填時には、医薬品包装に付いているバーコードとそれぞれの散剤容器、タブレットケース、注射ケースに付いているバーコードをリーダーで照合して行う。②特定生物由来製品、インスリン、腹膜還流液など調剤過誤を起こしやすい医薬品は、処方箋にバーコードを出力し、医薬品のバーコードとリーダーで照合しながら調剤する。③ヘパリンロック用薬剤「ヘパリンNaロック用100単位/mLシリンジ」をルアースリップタイプから抜去防止機能の付いたルアールロックタイプに変更した。④KCL注とアスパラKのシリンジ包装の外観が似ていることから、KCL注に黄色のシールを貼り、取違い防止を図っている。	

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 3 0 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療安全対策講習会（除細動器） 2 回臨床工学部による病棟単位の人工呼吸器勉強会（取扱説明等） 1 2 回臨床工学部による人工心肺装置及び補助循環装置勉強会（取扱説明等） 2 回臨床工学部による血液浄化装置勉強会（取扱説明等） 2 回製造販売業者による閉鎖式保育器研修会（取扱説明等） 2 回製造販売業者による診療用高エネルギー放射線発生装置勉強会（取扱説明等） 6 回製造販売業者による診療用放射線照射装置勉強会（取扱説明等） 4 回	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る計画の策定 (○有・無)・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none">保守点検記録表に基づく点検の実施保守点検記録表の保管・管理	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療機器の安全使用のために必要な不具合情報や安全性情報等を、製造販売業者等から収集し、病院長及び医療機器安全管理責任者へ報告するとともに、関連部署へ周知徹底医療機器の添付文書・取扱説明書等の保管・管理	

(様式第 6)

規則第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号から第 1 5 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	○有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>当院では、医療安全管理を担う部門として平成 14 年 10 月 1 日に「医療安全管理部（現；医療安全推進センター）」を設置し、副院長（医療安全推進担当）が当該部門長として医療安全推進センター及び医療安全管理委員会に係る業務を統括してきた。今般、特定機能病院承認要件の見直しを受け、上記の者を従来の統括業務に加え、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の安全管理業務全般をも統括する“医療安全管理責任者”として位置づけ、新たに平成 28 年 9 月 1 日付けで人事発令（病院長名）を行った。今後は、医療法施行規則の一部を改正する省令を遵守し、特定機能病院として更なる高度で安全な医療の提供が実施できるよう体制整備に取り組むこととしている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○有（2 名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none">○整理は、DI 業務（Drug Information Services）として医薬品情報担当者を配置し実施している。○周知は、・電子カルテ内に「薬剤部」のページを作り情報周知に役立てている。○採用医薬品については 2 年毎に「医薬品集」を発行し院内医療職へ配布。その間は（追補版を作成し配布）○院内の各部署、診療科より代表者メールを管理し、メーリングリストを作成し配信○院内庶務課より、院内の各部署、診療科へ書面を作成し送付○緊急性の高い緊急安全性情報、安全性情報については情報入手後、前記 2 ルート（メール配信、書面での送付）と共に、電子カルテ薬剤部ページへの掲載。並びに、過去 3 か月に遡り対象医薬品を処方した医師を抽出し個々の医師宛て書面にて注意喚起を行う。○医薬品・医療機器等安全性情報に掲載された「重要な副作用等に関する情報」についても同様に過去 3 か月に遡り、対象医薬品を処方した医師を抽出し個々の医師宛て書面にて注意喚起を行う。また、薬事委員会の席でも報告事項として案内する。	

<p>○医薬品の回収命令についても前記同様な対応を実施。</p> <p>○自主回収、製造販売中止などの情報については、院内配置在庫の回収、薬剤部在庫の確認を経て随時実施する。</p> <p>○院内の「デジタルサイネージ」に、特に重要な案内を掲載している(2回/月)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>○現在、病院生命倫理委員会などで審議しているが、院内手順書再検討中</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (○有・無)</p>	
<p>④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況</p>	<p>○有・無</p>
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (○有・無)</p> <p>・ 規程の主な内容：</p> <p>(1) 具体的な内容</p> <p>① 患者の同意を得るための説明</p> <p>② 療養指導のための説明</p> <p>③ 転医・転院を勧めるための説明</p> <p>④ 治療結果を報告するための説明</p> <p>⑤ 病状変化時の説明</p> <p>⑥ 手術後の手術経過や結果の説明</p> <p>⑦ 死亡退院に際しての説明</p> <p>⑧ 早期退院・自主的な帰宅により双方に不利益を及ぼさないための説明</p> <p>(2) 説明の担当者</p> <p>原則として、外来においては担当医師、入院(病棟)においては主治医が説明を行う。また、重要な説明を行う時には、上席医師が同席する。</p> <p>(3) 責任者の配置と実施方法</p> <p>平成28年9月1日付けでインフォームド・コンセント責任者を配置したほか、各診療科に当該担当者を配置し、実施状況を2カ月に一度確認することとしている。</p>	
<p>⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況</p>	<p>○有・無</p>
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>① 診療記録管理委員会への診療情報管理士による入院カルテの点検結果報告と改善要請。</p> <p>② 医師による退院サマリーの作成状況の把握と早期な作成要請。</p> <p>③ 医療クレークによる書類作成等の医師事務補助作業の実施状況の確認。</p> <p>④ 書類のスキャニング及び当該文書等の取扱状況(量)の把握。</p> <p>⑤ 電子化されていない診療録等の適切な保管スペースの確保と整理。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	○有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（ 7）名、専任（ ）名、兼任（ 3）名 うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ 2）名 うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ 1）名 うち看護師：専従（ 1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 ・活動の主な内容 ①医療安全対策の検討及び研究に関すること ②医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること ③医療安全対策のための職員に対する指示に関すること ④医療安全対策のために行う提言に関すること ⑤医療事故防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること ⑥安全パトロール ⑦その他医療安全対策に関すること <p>※平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準をみたしていることについて説明すること。</p>	
<p>⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 <u>※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照</u></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・○無） ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・○無） ・ 規程の主な内容 ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・○無） ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・○無） 	
<p>⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否を決定する部門の状況 <u>※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照</u></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・○無） ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・○無） ・ 規程の主な内容 ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・○無） ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・○無） 	

⑨ 監査委員会の設置状況 ※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照	有・○無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 回 ・ 活動の主な内容 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・○無） ・ 委員名簿の公表の有無（有・○無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・○無） ・ 公表の方法 	
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）	

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1. に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年127件（H28.2.1～3.31） ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全部門への報告状況：年49件（H28.2.1～3.31） ・ 医療安全管理委員会の活動の主な内容 <p>＜所掌業務＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療安全対策の検討及び研究に関すること ②医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること ③医療安全対策のための職員に対する指示に関すること

④医療安全対策のために行う提言に関すること

⑤医療事故発生防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること

⑥その他医療安全対策に関すること

《具体的業務》

① インシデント・アクシデント報告書及び問題（又は問題となりうる）事例届を収集し、事例ごとに分類し、さらに発生要因の分析を行い、事故の防止策を検討する。

②検討を行った医療安全対策を病院長に報告するとともに、職員に周知し、安全策の具体的方策の指示を行う。

③医療安全対策のための教育及び研修を行う。

④医療事故安全対策のためのマニュアルを作成する。

⑤インシデント・アクシデントの報告は、原因分析から安全対策作成のための大きな教訓となることから、これらの情報収集が重要となるが、報告者が不利益を被らないよう配慮する。

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院への立入り（ ○有（病院名：東京女子医大病院（H27年度）） ・無）
- ・ 他の特定機能病院からの立入り受入れ（ ○有（病院名：東京女子医大病院（H27年度）） ・無）
- ・ 技術的助言の実施状況

〈平成27年度指摘事項〉

○年に12回程度開催している医療安全に係る講習会について、現状では年2回以上の受講を全教職員に課しているが、どの講演会を受講するかは個人の自由となっているため、特に重要と考えられる講演に関しては全教職員が受講必須とするなど、工夫があっても良いのではないか。

○薬剤の使用頻度や後発医薬品等を確認すべき。

○病院の規模からして薬剤師の絶対数が不足している。

○ME室が狭いことに加え、医療機器を24時間貸出できる体制を整備すべき。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況

病院1階の地域医療連携センター内に“患者相談窓口”を設置し、専従の医療ソーシャルワーカーを配置している。患者からの相談内容に応じて、医療安全管理を担う「医療安全推進センター」との連携体制を構築している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（○有・無）
- ・ 窓口提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（○有・無）
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（○有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

①平成27年4月 1日(水) 午後2時45分から4時00分

(対象者:平成27年度新入教職員・・・医療従事者等)

②平成27年4月 2日(木) 午後2時20分から3時20分

(対象者:平成27年度新入看護師)

③平成27年4月10日(金) 午後0時から0時40分

(対象者:平成27年度新臨床研修医)

形態:オリエンテーション

講師:①医療安全推進センター 安全管理者 橋本 美雪

②医療安全推進センター 事務長 金子 一

③医療安全推進センター 安全管理者 辰元 宗人

演題:①「当院での医療安全の取り組みについて」

②「当院における個人情報保護について」

③「医療安全講習会 臨床研修医」

内容:「当院の医療安全体制」並びに「当院の個人情報保護」について解説がなされた。

参加者:① 33名

② 104名

③ 39名

○第1回 開催日:平成27年6月3日(水)

午後5時30分から午後6時30分

形態:講習会

講師:東京海上日動火災保険株式会社・本店損害サービス部

医療賠償損害サービス室 主任 原 啓二 先生

演題:「医療現場の安全管理を考える ～個人情報の保護～」

内容:「個人情報保護法、漏えい事例の説明等について解説がなされた。

参加者:一般教職員753名

○第2回 開催日:平成27年6月12日(木)

午後5時30分から午後6時30分

形態:講習会

講師:①放射線部 後藤 和則 氏

②放射線科 教授 楫 靖 教授

演 題：①「被ばく低減施設認定 WG の活動状況について」

②「被ばくと甲状腺癌について」

内 容：「被ばくのリスクの提示、検査管理等の説明」「甲状腺被ばくの影響や甲状腺癌の発生」について解説がなされた。

参加者：433名

○第3回 開催日：平成27年7月16日（木）

午後5時15分から6時15分

形 態：講習会

講 師：①放射線部 部長 楫 靖 先生

②放射線部 主任看護師 栃木 茂子 氏

演 題：①「安全な MRI 検査のために：事故例に学ぶ(ビデオ供覧)」

②「MRI 検査の注意点 ー看護師の立場からー」

①「補足事項」

内 容：2015年度に完成した教育医療棟の1階 MRI 室の使用方法等について解説がなされた。

参加者：658名

○第4回 開催日：平成27年7月23日（木）

午後5時15分から午後6時15分

形 態：講習会

講 師：自治医科大学付属病院 輸血・細胞移植部 部長 室井 一男 教授

演 題：「輸血療法とチーム医療」

内 容：輸血に関する看護師研修、チーム医療の推進等について解説がなされた。

参加者：550名

○第5回 開催日：平成27年9月9日（水）

午後5時から6時

形 態：講習会

講 師：①薬剤部 副部長 岩瀬 利康 先生

②看護学部 教授 宮本 雅之 先生

演 題：①「当院における睡眠薬処方と転倒・転落」

②「睡眠薬と転倒リスク」

内 容：睡眠薬と転倒・転落の繋がりについての解説がなされた。

参加者：377名

○第6回 開催日：①平成27年9月10日（木）午後5時から午後6時

②平成27年9月11日（金）午後5時30分から午後6時30分

形 態：実技講習会

講 師：救命医学 学内准教授 松島 久雄 先生

演 題：「院内パドル式除細動器の安全使用について」

①日本光電の除細動器 日本光電

②PHILIPS 製の除細動器 フクダ電子

内 容：院内パドル式除細動器の安全な操作方法について、実技を通して解説がなされた。

参加者：①14名(悪天候のため講演会中止。昨年度講演会のDVD聴講と実技講習が実施された。)

②249名

○第6回 開催日：平成27年9月30日（水）

午後5時30分から午後7時

形 態：講習会

講 師：一般社団法人 栃木県医師会 常任理事 宮原 保之 先生

演 題：「医療事故調査制度について」

内 容：10月1日より開始された医療事故調査制度の流れや内容について解説がなされた。

参加者：328名

○第8回 開催日：1日目 平成27年11月25日（水）

2日目 平成27年12月8日（火）

3日目 平成28年1月15日（金）

午後5時から午後6時30分

形 態：講習会(DVD 放映会)

講 師：一般社団法人 栃木県医師会 常任理事 宮原 保之 先生

演 題：「医療事故調査制度について」

内 容：10月1日より開始された医療事故調査制度の流れや内容について解説がなされた。

参加者：1日目 186名 2日目 174名 3日目 253名

○第9回 開催日：平成28年2月17日（水）

午後5時～6時

形態：講習会

講師：麻酔科 教授 山口 重樹 先生

演題：「オピオイドの適正使用について」

内容：オピオイドの適正な使用方法等について解説がなされた。

参加者：355名

○第10回 開催日：平成28年3月7日（月）

午後5時～6時30分

形態：講習会

講師：東海大学医学部附属病院 副院長・看護部長 横田 弘子 氏

演題：「「医療事故調査制度」に適切に対応するための備えについて」

内容：東海大学医学部附属病院の体制、医療事故調査制度の対応について解説がなされた。

参加者：322名

○第11回 開催日：平成28年3月17日（木）

午後5時15分～6時15分

形態：講習会

講師：輸血部 篠原 茂 技師

輸血部 高橋 渉 先生

演題：「院内の輸血関連インシデント事例報告」

内容：2015年度輸血関連インシデント事例内容、要因、再発防止の取り組みについて解説がなされた。

参加者：179名

○第12回 開催日：平成28年3月23日（水）

午後5時～6時

形態：講習会

講師：リスクマネジャー委員会委員

演題：「平成27年度リスクマネジャー小委員会における活動内容報告会」

内容：各リスクマネジャー小委員会の年間活動内容及び検証結果について発表した。

参加者：162名

○ビデオ視聴

形 態：医療安全推進課管理ビデオ視聴

視聴者数：451名(平成28年3月31日現在)

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況 ※経過措置の適用により、様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

・研修の実施状況

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	○有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人 日本医療機能評価機構 訪問審査受審(3rdG:Ver.1.0) :平成25年10月2日(水)～3日(木)の2日間 認定年月日:平成25年11月17日(認定日より5年間有効)	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	○有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 栃木県保健医療計画(6期計画)に基づき、がんの医療、脳卒中の医療、心筋梗塞の医療、糖尿病の医療、救急医療、災害医療、周産期医療及び小児医療を主な地域における当院の役割と基本方針に定め、啓発ポスターの院内掲示やH p、ラジオ等での情報発信をはじめ、他の医療機関関係者並びに地域住民に対して研修会やセミナーを開催している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	○有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ハートセンターなど、心臓・血管疾患診療に携わる当院3診療科(心臓・血管内科、循環器・腎臓内科、心臓・血管外科)の医師が、医療従事者とともに各診療科の枠組みを超え、一致協力して診療を行っており、これまで以上に急性期医療から心臓リハビリテーションに至るまで、質の高い医療を多くの患者様に提供しているほか、近年では前立腺センター、再生医療センター及び放射線治療センターを設置するなど、院内19センターを整備し各診療科が密	

接な連携を取り、患者様により分かりやすく安全な医療を提供するため、積極的なセンター化に取り組んでおります。

(様式第8)

獨医大病庶庶第57号
平成28年9月7日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 獨協学園
理事長 寺野 彰 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

当院では、医療安全管理を担う部門として平成14年10月1日に「医療安全管理部（現：医療安全推進センター）」を設置し、副院長（医療安全推進担当）が当該部門長として業務を統括している。今般、特定機能病院承認要件の見直しを受け、医療安全部門、医療安全管理委員会、医薬品管理部門、及び医療機器部門等全般の管理責任者としての位置づけの更なる明確化を図るため、新たに“医療安全管理責任者”として人事発令（病院長名）を実施した。また、本件に関連して医療安全推進センター分掌規程に医療安全管理責任者の選任について条文を追加するとともに、医療事故対策マニュアル等の改訂についても併せて行うこととしている。

○人事発令年月日 ; 平成28年9月 1日

○規程等改訂年月日（予定）；平成28年9月30日

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

医薬品に関する情報の整理は、医薬品情報担当者を配置して既に実施している。また、医薬品使用部署すべてに「薬品管理薬剤師」として薬剤師の担当者を配置し、医薬品の保管、管理、使用期限、適正な定数配備、救急カートの管理状況の指導等に従事している。現在はこれらの業務に加え、“医薬品の安全使用のための情報の周知状況確認および実施状況の確認体制”を構築する。

○体制整備年月日（予定）；平成28年9月30日

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置については、新たに「インフォームド・コンセント責任者」を指名し、人事発令（病院長名）により責任者としての位置づけの明確化を図った。更に、各診療科にインフォームド・コンセント担当者を配置し、実施状況の確認や指導を行う体制整備に取り組むこととする。

○人事発令年月日 ; 平成28年9月 1日

○体制整備年月日（予定）; 平成28年9月30日

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

現在、インフォームド・コンセントが確実に実施されるよう、標準的な実施方法に係る規程（同席者、説明内容のルール）や同意書の改訂の必要性について、見直しのうえ精査している状況である。また、本件については、改めて全部門が出席する院内主要会議等（診療部長会議、病院連絡会）を通じて、全教職員への周知・徹底を図ることとしている。

○規程制定年月日（予定）; 平成28年9月30日

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

当院では、診療録等を管理する部門として「診療記録管理部」を設置し、診療録等管理の統括者として専従の課長を配置している。今回の特定機能病院承認要件の見直しを受け、新たに“診療録等管理責任者”としての人事発令（病院長名）を行い、位置づけの更なる明確化を図った。また、本件に関連して診療記録管理部組織・事務取扱規程等の見直しの必要性について精査している状況である。

○人事発令年月日 ; 平成28年9月 1日

○規程改訂年月日（予定）; 平成28年9月30日

6. 規則第9条の23第1項第10号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

各部門からのインシデント・アクシデント、及び死亡事例報告については、新たに電子カルテシステム上に「インシデント報告分析システム（イーパワークリップ）」を導入することにより、迅速かつ正確な報告ができるよう改善する。また、インシデント・アクシデント報告の内、レベル3b以上（院内基準）、及び入院患者の全死亡事例については、「医療安全管理委員会」で検証を行うこととし、その結果を管理者（病院長）へ報告するとともに、再発防止策について全教職員宛てに周知・徹底を図る体制を整備する。

○報告システム構築年月日（予定）；平成28年9月30日

○体制整備年月日（予定）；平成28年9月30日

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

医療安全の適切な実施に疑義が生じた場合、全教職員からの通報を受ける窓口（内部通報窓口）を、新たに外部機関（弁護士事務所）に設置する。また、本件については、全部門が出席する院内主要会議等（診療部長会議、病院連絡会）を通じて、内部通報窓口の設置、通報範囲、使用方法等を全教職員へ周知・徹底を図ることとしている。

○窓口設置年月日；平成28年10月1日

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

上記課題については、経過措置期間として定めのある平成29年3月31日までに、医療安全に資する診療状況等を医療安全管理委員会等で定める基準（医療安全に資する診療内容・研修の受講状況により従業者の医療安全の認識）により、モニタリングを実施することとしている。

○体制整備年月日（予定）；平成29年3月31日

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

当該医療の提供の適否等を決定する部門について、新規に部門を設置するか、既存の組織を活用した部門を整備し体制を構築するか検討中であり、平成29年1月末を目標に方向性を決定の上当該部門を設置する。部門設置後、速やかに高難度新規医療技術評価委員会（仮称）を設置することとしている。

○当該部門体制整備年月日（予定）；平成29年2月 1日

○委員会設置年月日（予定）；平成29年3月 1日

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

担当部門を設置次第、規程の整備に着手することとしている。

○規程制定年月日（予定）；平成29年3月 1日

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

当該医薬品等の提供の適否等を決定する部門について、新規に部門を設置するか、既存の組織を活用した部門を整備し体制を構築するか検討中であり、平成29年1月末を目標に方向性を決定の上当該部門を設置する。部門設置後、速やかに未承認新規医薬品等評価委員会（仮称）を設置することとしている。

○当該部門体制整備年月日（予定）；平成29年2月 1日

○委員会設置年月日（予定）；平成29年3月 1日

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

担当部門を設置次第、規程の整備に着手することとしている。

○規程制定年月日（予定）；平成29年3月 1日

13. 監査委員会を設置するための予定措置

医療安全管理責任者・医療安全管理部門等の業務状況を把握し、当院の開設者・管理者に対し、是正措置を勧告するため 3 名以上の外部有識者（利害関係のない者・法律家等）を含んで構成する監査委員会を設置することとし、現在、院内外の委員候補について選定を進めている。

○委員会設置年月日（予定）；平成 29 年 3 月 1 日

○規程制定年月日（予定）；平成 29 年 3 月 1 日

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

現在、日本私立医科大学協会に加盟する他大学病院との間で実施している相互ピアレビューについて、今後も継続的に実施する。

○体制整備年月日（予定）；平成 29 年 3 月 31 日

15. 職員研修を実施するための予定措置

今後の医療安全に係る研修会（講習会）の年間計画を取り纏めるに当たっては、毎年、2 月に開催の「医療安全管理委員会」、「外部監査委員会」等の院内外から選出された委員などの意見も参考に取り入れつつ、新たな承認要件が満たせる研修内容に努めることとする。

○体制整備年月日（予定）；平成 29 年 3 月 31 日

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

外部団体（国や医療安全学会等）が実施する管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）の開催日について情報収集及び対象者への情報発信の強化を図るほか、当該管理者等の受講状況を把握し、積極的な参加を促す体制整備に取り組むこととしている。

○体制整備年月日（予定）；平成 29 年 3 月 31 日

17. 医療安全管理部門の人員体制

- ・ 所属職員：専従（7）名、専任（0）名、兼任（3）名
 - うち医師：専従（0）名、専任（0）名、兼任（2）名
 - うち薬剤師：専従（0）名、専任（0）名、兼任（1）名
 - うち看護師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

現在の医療安全管理部門（医療安全推進センター）の体制としては、上記「17. 医療安全管理部門の人員体制」のとおり10名（専従者7名、兼任者3名）を配置している。ただし、特定機能病院の新承認要件である専従の医師及び薬剤師の配置については未整備の状況であるため、現在、当院所属の医師及び薬剤師の中から、適任と思われる候補者についてリストアップ作業を取り進めており、人選が終了しだい速やかに人事発令（病院長名）のうえ配置予定としている。

発令年月日（予定）；平成29年4月1日付け（医師1名、薬剤師1名）